

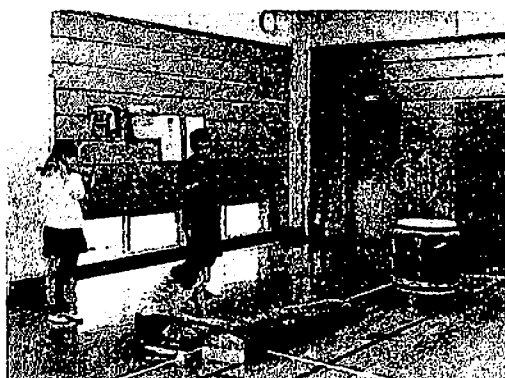
令和元年度 第69次印旛地区教育研究会集会
音楽分科会提案資料

音楽研究部研究主題

音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ
音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

研究副主題

「音楽的な見方・考え方を働かせ、地域に伝わる伝統音楽や民話の世界の表現活動を通して音楽づくりを楽しむ児童の育成」



第2部会

栄町立安食台小学校 神成美名
栄町立布鎌小学校 黒須裕子

《 目 次 》

研究主題・副主題について		1～3
H30年度の実践	布鎌小	3～6
	安食台小	6～9
	H31の研究に向けて	10～14
H31・R元年度の実践	布鎌小・安食台小	15～37
研究のまとめ		38
資料編	地域に伝わる獅子舞・布鎌惣社水神社	1
	「白馬にのった水神様」あらすじ	2
	布鎌小ワークシート（感想）	3～4
	安食台小ワークシート（感想）	5～7
	交流会（感想）	8～9

1 印旛地区音楽教育研究部 研究主題

「音楽の美しさを聴き取ろう 感じ取ろう そして伝え合おう」
～音楽的な見方・考え方を働かせ、進んで音楽に親しみ、音や音楽
と豊かに関わる資質・能力を育成するための授業づくり～

2 研究副主題

「音楽的な見方・考え方を働かせ、地域に伝わる伝統音楽や民話の世界の
表現活動を通して音楽づくりを楽しむ児童の育成」

3 副主題設定の理由

(1) 学習指導要領とのかかわり

新学習指導要領音楽科の改訂前として、音楽のよさを音楽的な見方・考え方を働かせながら感じとり、思いや意図をもって表現する力の育成や、音楽文化を理解し、音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成することは大切であると考えた。その中で、創作活動に関する事項は、「音楽づくり」として、既存の作品を創意工夫して表現する活動は含めておらず、歌唱及び器楽活動において指導することとされてきた。

そして、「音楽づくり」は、子どもが自らの感性や創造性を発揮しながら自分にとって価値のある音や音楽をつくる活動である。そのため、子どもが進んで音とかかわり、音を探究したり、様々な発想を生かしたりして音遊びをする能力や音を音楽へと構成する能力を育てることが指導のねらいの中心となり、「できた音楽」よりも「つくる過程、プロセスでの思考や工夫」が重要であった。さらに、「できた音楽」を「聴き合い、感じ合い、伝え合う」ことで、より音楽的な見方・考え方が深まるのではないかと考える。

これらのねらいを実現するためには、音そのもののよさや音楽の仕組みの面白さに興味をもつことが大切になる。普段の授業の中で、少しずつ様々なリズム遊びや簡単な旋律づくりを体験させたり、身近な地域の中から素材を見つけ、子ども達に投げかけることにより、より興味をもって取り組むことができ、また、音楽的な見方・考え方を働かせることにより、地域に伝わる伝統音楽や民話を使って音楽づくりを楽しむことができるのではないかと考え、本副主題を設定した。

(2) 栄町の小学校の実態から

栄町の小学校は4校あるが、そのうちの2校は各学年がすべて単学級という小規模校である。創立100年を越える歴史のある学校もあれば、新しく造られた住宅地の中に建てられた学校もあり、全体的に素直で子どもらしくのびのびと生活している児童が多い。地域には、和太鼓演奏を行っているグループも複数あり、各地区のお祭りで演奏を披露したり、小学校で和楽器の体験学習をしたりしている。また、市民によるミュージカル団体もあり、大人だけではなく子ども達も参加している。過去には栄町に古くから伝わる龍伝説を題材としたミュージカルの公演を行っており、それをもとにした紙芝居を各学校で読み聞かせとして行ったり、町内のイベントで歌や語りを披露したり

もしている。今後も、地域の伝説を題材とした公演を予定している。

児童の実態を把握するためのアンケート結果を見てみると、音楽の授業の中で楽しみにしていることは、「歌を歌ったり楽器を演奏したりすること」や「音楽を鑑賞すること」という児童が多く、みんなで歌ったり色々な楽器を演奏したりすることや音楽を聴くことに楽しさを見出している。また、音楽の授業の中で難しいと思うことは、「鍵盤ハーモニカやリコーダーの指使い」、「楽譜の読み書き」と答える児童が多く、技能の未熟さから思ったような演奏ができず、困難さを感じているようだ。音楽づくりについては、「楽しい」等感じている児童はいるものの、音楽的な基礎知識の不足や記譜法・演奏の難しさから、積極的に取り組むことができていない状態であることがわかる。教師側の立場からも、教材の扱い方や時数の確保等の理由から音楽づくりに取り組むことに難しさを感じている状況もある。

しかし、柴町には、小中連携で取り組んでいる『栄っこ宣言』がある。その中にある、「ふるさと栄をほこります」のテーマのもと、ふるさとを大切にしながら一人一人が夢に向かってがんばりぬくことができるような児童・生徒の育成を目指している。

以上のことから、音楽づくりに取り組むにあたり、児童の興味・関心を高められるような地域の特性を生かした身近な素材を取り入れていくことが効果的であると考えた。身近な素材の中から教材を見つけて児童に提供することにより、地域への思いや意欲をもって音楽づくりに取り組むことを目指した。親しみやすい題材を取り上げることにより、自分たちはこう表現したいという思いや意図を膨らませることができ、音楽づくりを楽しむことができるだろう。しかし、自分が表現したいものがあっても、技能面の未熟さから、どう表現したらよいかわからないという児童が多いという実態をふまえ、様々な指導を工夫することで技能面の向上を図りたい。また、活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、自己のイメージや感情、生活や文化などを関連付けて、児童の発達の段階に応じた、「知識及び技能」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性等」の涵養の実現に向けて取り組んでいく。

4 研究仮説

【仮説1】 地域に伝わる伝統を通して、友だちと共に音楽活動を行ったり、地域の人々との関わりをもったりすることにより、我が国や郷土の伝統音楽や日本音楽のよさや面白さを味わうことができるであろう。

【仮説2】 地域に伝わる伝統音楽や民話を聴いたり演奏したりする活動を取り入れることで、それぞれの思いを生かした表現活動につなげることができるだろう。

5 めざす児童像とそのための手立て

	めざす児童像	手立て
仮説1	地域に伝わる伝統に関心をもち、伝統音楽や日本音楽のよさを味わおうとする。	<ul style="list-style-type: none"> 導入の場面で、地域に伝わる素材の提示の仕方を工夫し、児童の興味・関心を高める。 身近な日本音楽の音色に触れることで、いろいろな思いや発想を持ってその良さを味わえるように工夫する。
	自分と友だちの思いを交流させて音楽づくりをすることにより、地域の伝統や音楽について考えを深める。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いや意図を音楽にしたものをお互いに聴き合い認め合うことによって、自信をもって音楽活動ができるようにする。 ワークシートを活用し、自分の思いや意図を表現しやすくする。
仮説2	伝統音楽や民話を聴いたり演奏したりすることで、表現の技能を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> 段階的な指導を工夫し、音遊びやリズム遊び、簡単な旋律づくりなどを通して、技能を高められるようにする。 日本音楽（音階）の曲を歌ったり演奏したりして、様々な方法で音楽表現ができるようにする。
	音楽の特徴や構造を生かして、音楽表現に結びつける。	<ul style="list-style-type: none"> 日本音楽（音階）の曲を中心に、楽器の正しい奏法を適宜指導し、全ての児童が取り組みやすい支援の仕方を工夫する。 音楽の仕組みを生かした即興的な表現活動を取り入れる。

6 指導の実際

研究Ⅰ（平成30年度）

栄町内2つの小学校で仮説を検証するための授業を行った。授業では、児童が親しみやすい地域の音楽や伝説を題材として取り上げた。以下の2例である。

第4学年・・・「白馬にのった水神様」（伝説）
第6学年・・・「獅子舞」の音楽

次のページからは、それぞれの学校の授業実践（H.30）の様子をまとめたものである。指導計画から、「学習内容」と「主な活動」のみ抜粋し、成果と課題を記した。

※各実践の写真資料は最後に「資料編」としてまとめた。

授業実践一 第4学年(布鎌小学校)

栄町布鎌地区に伝わる伝説「白馬にのった水神様」に、場面にあった言葉や音楽づくりを行った。はじめは、グループごとに各場面に分かれて話の内容や様子のイメージを想像しながら、音楽のつながりや組み合わせを考えて、音楽づくりを進めた。

題材名 音の組み合わせや進み方を選んで、音楽をつくろう(4時間扱い)

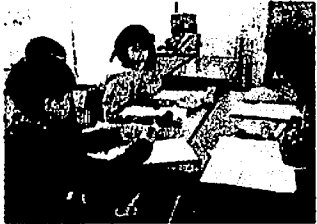

教材名 伝説「白馬にのった水神様」



指導計画(学習内容と主な活動のみ抜粋)

時間	◎ねらい ○主な活動 ・学習内容 [共通事項]	・手立て ◇評価
1	◎音楽物語の場面や心情に想像を膨らませながら、興味・関心をもって聴く。	
	○「印旛地方の伝説」のDVDを鑑賞し、音楽の諸要素などに気づく。 ・場面の様子を確認しながら、登場人物の心情がどのような音楽の諸要素で表されているか、場面ごとの違いに気を付けながら聴く。 ・音楽の諸要素の働きが感じられるように、気付いたことをワークシートに書く。書いたことを発表させ、お互いの感想を共有する。 [音色・リズム・旋律]	・「印旛地方の伝説」の中から、リズムや旋律、音色などの特徴のあるものを選んで意識させて聴く。 ・場面ごとの情景や登場人物の心情を音楽から想像させながら聴く。 ◇音楽物語の場面や心情を想像しながら聴こうとしている。 (関一①)【ワークシート】
2	◎それぞれの場面の心情や情景を想像して、旋律をつなげたり重ねたりしてまとまりのある音楽づくりをする。	
	○「白馬にのった水神様」のそれぞれの場면을グループごとに担当して、音楽づくりをする。 ・最初は全員で旋律づくりをさせて、その際5音音階を使うことを確認する。 ・場面の心情や情景をよく考える。 [音色・旋律]	・それぞれの場面をどのように表すか、考えて話し合うように指示する。 ◇自分の思いをもって、場面に合った音楽をつくろうとしている。 (関一②)【ワークシート】



3	<p>◎楽器の特性を生かして、自分の思いをもって、音楽を構成したり演奏したりする。</p> <p>○ グループの中で聴き合い、旋律をつなげたり重ねたりして音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「反復」や「変化」、「音の重なり」などの音楽の諸要素を考えながら工夫して組み合わせる。 ・つくった音楽に合う楽器を選び、音色や伴奏を楽しむ。 <p>[音色・旋律・反復・変化]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自で考えた旋律を聴き合って、場面に合った旋律を選ぶ。 ・お互いのよさや音楽の要素を組み合わせる音楽をつくる。 <p>◇楽器の特性を生かして、音色やリズムが生み出す面白さや音楽の構成を考えて工夫しようとしている。</p> <p>(創一①)【活動の様子】</p>
4	<p>◎全体の流れを考えて、音楽の仕組みを工夫してまとめていく。</p> <p>○すべての場面をつなげて、一つの音楽劇になる楽しさや達成感を味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体をまとめて流していき、より場面に合う音楽表現にしていく。 <p>[音色・旋律・変化]</p> 	<p>お互いのイメージした表現が、より場面に合った演奏になるようにまとめていく。</p> <p>◇音楽の仕組みを生かしたり、全体の流れを工夫して考えたりして、まとまりのある音楽をつくっている。</p> <p>(技一①)【活動の様子】</p>

【仮説1】について

- 地元の伝説を題材として学習に取り組んだことで、児童が興味・関心をもって、意欲的に学習することができた。
- 場面や登場人物の言葉に合わせてリズムや音を考えたり選んだりしていったので、情景や心情を捉えながら音楽づくりに取り組むことができた。
- 一人一人が音楽づくりをする作業をさせてからグループ活動を行ったので、自分の考えや作品を聴かせ合うことができた。
- グループ活動ではお互いの作品のよさや違いに気づき、認め合い、考えを深めながら、場面に合った音楽をつくることができた。
- △紙面だけでなく、音楽を録音して聴くような振り返りも必要。それによって、「できたという喜びや感動、直した方がよいところの発見」が次の学習への意欲や関心へとつながる。

【仮説2】について

- 地域のミュージカルの映像を単元の最初に鑑賞したことで、地域の伝説に興味をもち、意欲的に学習に取り組むことができた。
- リズムや5音音階、音楽の作り方を学習カード（ワークシート）で示すことによって、児童一人一人が自分の考えや思いを確認したり、見聞きしたりすることができた。
- 音楽づくりに用いる楽器として、木琴や鉄琴などの打楽器を選定したことにより、リコーダーの苦手な児童も、無理せずに自分の思いを演奏することができた。
- お互いの作品をグループカードに記録し、活用することによって、お互いの技能を補い合ったり表現をより広げたりすることができた。
- △音楽や楽器選びをする時に、思いに合うイメージが浮かばないところがあったので、事前に楽器の提示や見本の音を聴かせるなどの工夫をするとよかった。
- △基本のリズムや考えた音楽を演奏したり合わせたりするのに、普段から拍子感を育てたり技能の向上を図ったりする指導の積み重ねが必要である。
- △題材全体として難しいものであったので、思いを生かすための音楽的な知識などの準備も必要だった。

授業実践— 第6学年（安食台小学校）


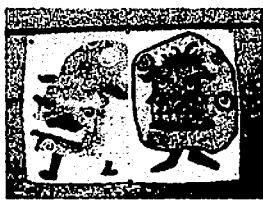
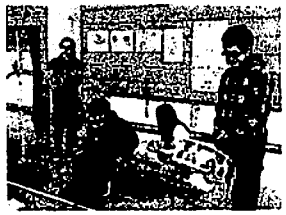
柴町北辺田地区（北辺田，矢口）に伝わる獅子舞の踊りに、グループごとに和楽器を用いて音楽づくりを行った。グループごとに獅子舞のイメージを大切にしながら、「はじめ—なか—おわり」を考えて音楽づくりを進めた。



題材名 和楽器で「獅子舞」の音楽をつくろう（7時間扱い）
 教材名 地域に伝わる「獅子舞」の音楽（音楽づくり）



指導計画(学習内容と主な活動)

時間	◎ねらい○主な活動 ・学習内容	【共通事項】	・手立て	◇評価
1	◎三味線や箏の奏法について知り、和楽器に慣れる。			
	○三味線、箏の名称、準備の仕方を知る。 ・撥や爪をつけて、自由に演奏する。 ・片付けの仕方を聞き、落ち着いて片付ける。	[音色]	・三味線、箏の特徴をつかみ、和楽器に親しみをもつ。 ・楽器を自由に演奏する。 ・準備、片付けの仕方を知る。	

2	<p>◎三味線や箏の奏法について知り、和楽器に慣れる。</p> <p>○自分の分担楽器の練習をする。</p>  <p>[音色・リズム]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器を自由に演奏する。 ・強弱やテンポを工夫しながら、色々なリズムで練習する。 ・三味線、箏、篠笛（リコーダー）については、出せる音で練習する。 <p>◇和楽器に興味・関心をもち、進んで演奏に取り組もうとしている。(関一①)【ワークシート】</p>
3	<p>◎獅子舞の様子を感じ取りながら、自分の思いをもって獅子舞の音楽をつくる。</p> <p>○グループで、獅子舞に合う音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・獅子舞のイメージをもとに、テーマを考える。  <p>[音の重なり, 強弱, 反復, 音楽の縦と横の関係]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・写真や絵を参考にしながら、獅子舞についてテーマを考え、音楽づくりのイメージを広げる。 ・和楽器でどのように演奏したらよいか考える。 <p>◇獅子舞の様子を感じ取りながら、テーマを考え、どのように音色を組み合わせて演奏するかについて自分の考えや願いをもち、演奏の仕方を工夫して表現することができる。</p> <p>(創一①)【ワークシート】</p>
4	<p>○グループで、獅子舞に合う音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージする獅子舞に合わせて、2拍子の音楽をつくる。 <p>[音の重なり, 強弱, 反復, 音楽の縦と横の関係]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間を想起し、獅子舞の様子を感じて音楽をつくる。 <p>◇獅子舞の様子を感じ取りながら、テーマを考え、どのように音色を組み合わせて演奏するかについて自分の考えや願いをもち、演奏の仕方を工夫して表現することができる。</p> <p>(創一①)【活動の様子】</p>
5	<p>○グループで、獅子舞に合う音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の音色を感じながら、音を重ねていく楽しさを味わう。 <p>[音の重なり, 強弱, 反復, 音楽の縦と横の関係]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色を感じながら個々に考えた旋律やリズムを話し合い、獅子舞の音楽をつくる。 <p>◇獅子舞の様子を感じ取りながら、テーマを考え、どのように音色を組み合わせて演奏するかについて自分の考えや願いをもち、演奏の仕方を工夫して表現することができる。</p> <p>(創一①)【活動の様子・ワークシート】</p>

6	<p>◎つくった獅子舞の音楽をグループごとに工夫して練習する。</p> <p>○グループごとにつくった音楽の練習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の音色のよさを生かしながら、使う楽器や演奏の順番を工夫しながら練習する。  <p>[音の重なり, 強弱, 反復, 音楽の縦と横の関係]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間を想起し、獅子舞の様子を感じて演奏する。 ・自分の楽器の音を確認しながら、友だちと気持ちを合わせ、練習できるようにする。 <p>◇強弱, 速度などの音楽の仕組みを生かしたり, 全体の流れを考えたりしながら, まとまりのある獅子舞の音楽をつくっている。</p> <p>(技一①)【活動の様子・ワークシート】</p>
7	<p>◎つくった獅子舞の音楽を発表する。(総合的な学習の時間)</p> <p>○グループごとにつくった音楽を発表する。 (学年, 5年生)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に練習したことを思い出し, 聴いてほしいポイントを確認しながら, 獅子舞の音楽を聴き, 感想をもつ。  <p>[音の重なり, 強弱, 反復, 音楽の縦と横の関係]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにつくった音楽を発表する。 ・友だちの発表を聴き, 自分たちのつくった音楽との違いや獅子舞のイメージに合わせてつくった音楽を楽しんで聴く。 ・テーマのもと, 自分たちでつくった音楽を5年生に発表する。 <p>◇獅子舞の様子を感じ取り, 自分の思いを大切にしながら, グループでつくった音楽を発表している。</p> <p>(創一①)【活動の様子・ワークシート】</p>

【仮説1】について

- 「獅子舞」をテーマに, 地域の人から踊りを教えてもらったり, 自分のイメージを大切にしながら友だちと音楽をつくったりすることにより, 和楽器の面白さや地域に伝わる音楽の面白さを味わうことができた。
- 友だちと「獅子舞」への思いを共有し合うことにより, より表現したい獅子舞のイメージが明確化し, 自分たちの思いを生かした音楽づくりへとつなげることができた。

△ 箏や三味線など、和楽器ならではの難しさがあり、技能が追いつかず思うように表現することができなかった児童もいた。

△ 自分たちのつくりたい音楽のイメージを意識しながら、各グループごとに工夫して強弱や速度などの音楽の仕組みを生かして音楽をつくることができたグループもあったが、音楽の要素の幅を広げてしまったために、自分たちのイメージする音楽をつくることができなかったグループもあった。特に、速度の変化が難しく、拍を合わせるできないグループがあった。

△ 音楽をよりよく表現するためには拍の意識を高め、みんなでそろえて演奏する拍感を生かした音楽づくりができるように進める必要があった。

【仮説2】について

○ 地域に伝わる「獅子舞」に関心がもてるように、昨年度の獅子舞の踊りを表現に生かしたり、実際に踊りを見たりすることにより、自分たちがどのように表現したいのか、想像力を働かせて考えることができた。

△ 思いを音楽表現に生かすためには、音楽表現時の楽器の役割や分担、音の重なり（何人で演奏するのか）など、焦点をしぼって活動する必要があった。

△ リズムや拍感を意識しながら、拍を合わせる大切さを感じさせる自分のイメージに合わせて音楽をつくることと、みんなと合わせることの両方が必要であった。

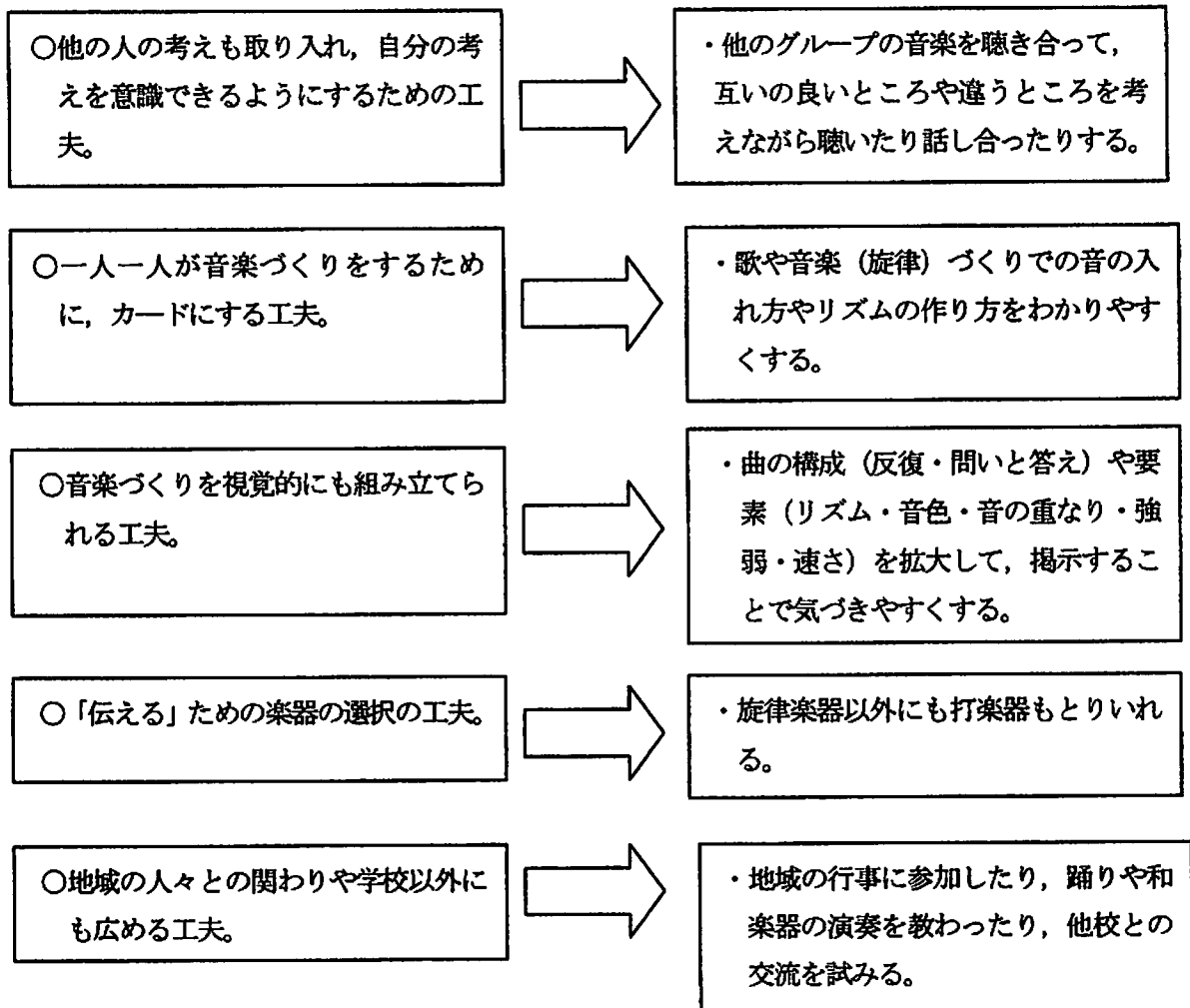
研究Ⅱ（平成31・令和元年度）

研究Ⅰ（平成30年度）の成果と課題を受けて、目指す児童像にさらに近づけるような授業内容になるように取り組んだ。

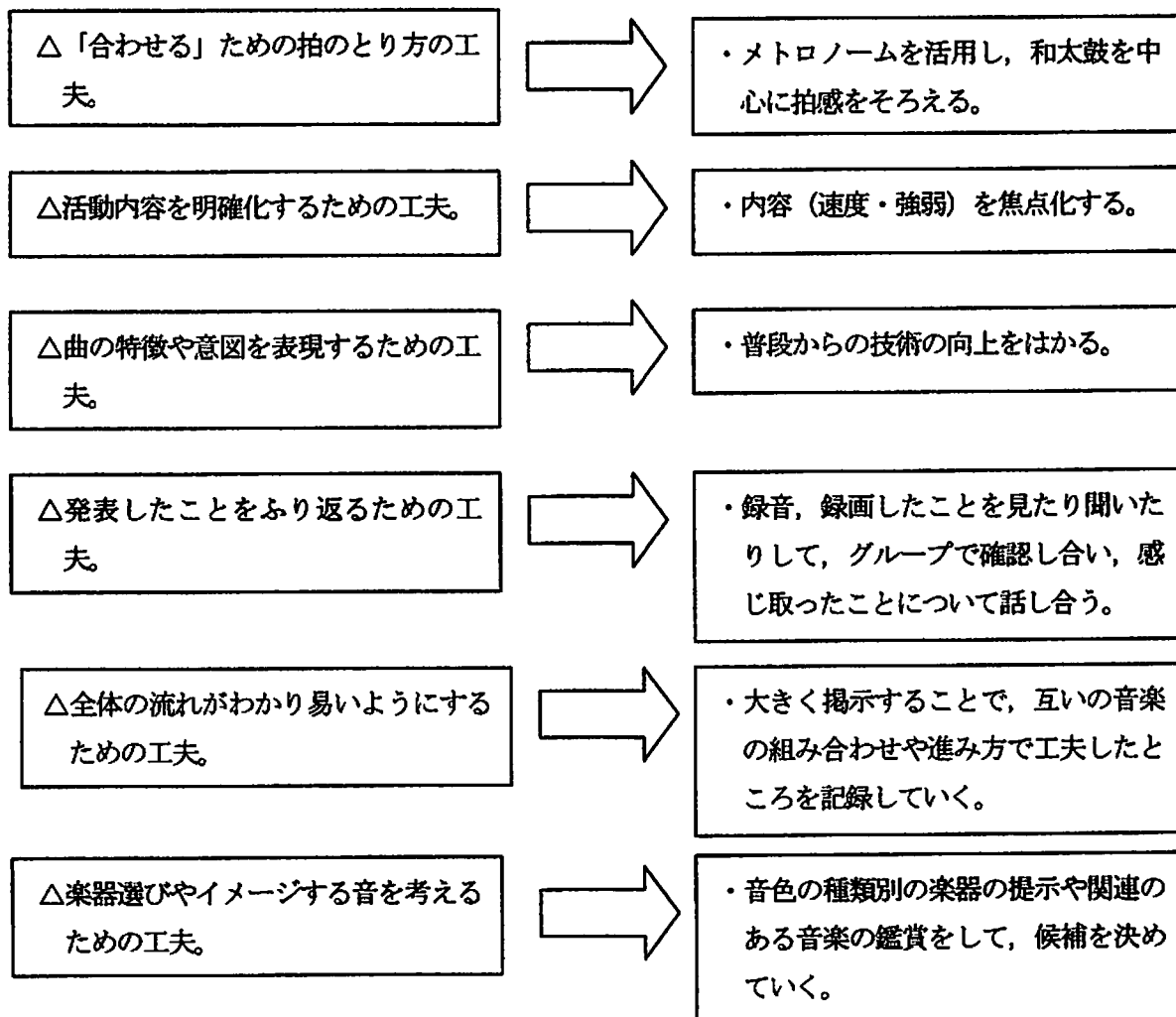
【仮説1】 地域に伝わる伝統を通して、友だちと共に音楽活動を行ったり、地域の人々との関わりをもったりすることにより、我が国や郷土の伝統音楽や日本音楽のよさや面白さを味わうことができるであろう。

【仮説2】 地域に伝わる伝統音楽や民話を聴いたり演奏したりする活動を取り入れることで、それぞれの思いを生かした表現活動につなげることができるだろう。

研究Ⅰで成果があったと思われる活動や手立てを積極的に取り入れた。

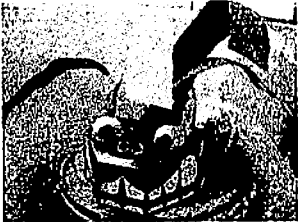



研究Ⅰで課題となった事柄について改善を試みた。



他教科との連携・・・地域に伝わる伝統

	音楽科	他教科 (国語科・図画工作科・総合的な学習の時間)
一年		わたしのつうがくろ・・・学校まわりの探検（生活科） ・学校のまわりの様子に目を向け、身近な公園で遊んだり、自然にふれたりする。
二年	おまつりの音楽 ・曲の気分を感じ取って、生き生きと歌ったり、いろいろな音	わたしの町 はっけん（生活科） ・自分たちが住む町を探検し、様々な場所やもの、人に出会いながら、町への親しみと愛着を深める。

	楽の特徴を感じ取って聴いたりする。		
三年	和太鼓を演奏しよう (2時間) ・バチの持ち方, 構え方 ・リズム練習, 一斉練習	のこしたいもの つたえたいもの (社会科・9時間) ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事の様子や, それらを保存し, 継承するための取り組みについて興味, 関心をもつ。	
		安食台	布 鎌
		北総栄太鼓をひびかせよう (総合的な学習の時間・13時間) ・自分たちの町の伝統や文化について考え, 太鼓の練習や発表に取り組む。	布鎌地区の相撲大会 (総合的な学習の時間・4時間) ・水神社の言われを知り, 相撲大会の伝統を引き継ぐ。
四年	おはやしのリズムやせんりつで遊ぼう (音楽科・4時間) ・昨年度の太鼓の学習を生かして, おはやしに合うリズムやせんりつを考える。	(地域の防犯マップを作ろう) 	布鎌地区の相撲大会 (総合的な学習の時間) ・水神社の伝説を音楽にする。
五年	獅子舞の音楽をつくろう ・和楽器で, ししまいの音楽をつくる。 ・篠笛に親しむ。 (音楽科・7時間)	地域に伝わる「ししまい」にふれよう ・獅子の頭を作る。 (図画工作科) ・獅子舞の踊りを覚える。 (総合的な音楽の時間) ・6年生がつくったししまいの音楽を聴く。 (総合的な学習の時間)	布鎌地区の相撲大会 (総合的な学習の時間) ・水神社の伝説をもとに, 他の伝説を広める。 (国語科) 
六年	わたしたちの国の音楽 (音楽科・3時間) 「日本の楽器の音色を味わってきこう 演奏しよう」 ・三味線や箏, 篠笛などの和楽器に親しむ。	「栄町の魅力 再発見」(総合的な学習の時間) ・地域の魅力には, どのようなものがあるのか, どのようなよさがあるのか, 考える。 ・地域に伝わる伝統や文化を感じながら栄町の魅力に気づき, 学校間交流を生かすことで, 栄町の歴史に興味をもつ。	

音楽づくりを通した音楽的な見方・考え方

・それぞれのテーマをもとにした、自分たちのつくりたい音楽や一人一人の思いや意図を表現するための工夫（グループ）

<布織小学校>

4年（1）グループ：水神様に対する

場面）

・「歌」では、くり返して歌うことで持つ気持ちや表れるようにしました。又、みんなが合うように強さに気を付けました。
「音楽A」では神様（ほ）呼んでいるように音の高さや音色に気を付けました。特にスレイベルという打楽器で神社の感じが出るようにしました。
「音楽B」では、ゆくりなせんりつと早めのせんりつを輪唱のように組み合わせたり強弱もつけたりして、水神様が表れたり消えたりしていく様子を表しました。その時にオルガンの音色や鉄きんのえんどうの仕立を工夫しました。
・5音階階を使うことにより、日本的な感じがでることがわかりました。

4年（2）グループ：水神様が見回りを

場面）

・雨や風の音をマラカスや、ペットボトルで表せたのがおもしろいです。
「音楽C」は、テーマ曲に選ばれて水神様のふんいきが出ていてよかったと思えました。くり返してだんだん大きくしていったのが、雨の中での水神様の登場の感じが表わせたと思います。
「音楽D」では前半の「あめたん」を3回後半「水神様があらわれたっ」を1回にして思いの強さを表しました。
「音楽E」では3台のオルガンではげしい雨の中を水神様が見回りながらあらわれたらまほうを直しているようすと、それぞれのリズムを工夫したり、重ねたりがらしたりして時間が流れていくようにしました。
・最初は合わなかったところも強さを注意することで合うようになりました。

4年（3）グループ：

水神様に感言身する

場面）

・「音楽E」では和太鼓に入れてお祭りの感じを出したり。せんりつの木きんや鉄きんの音色を重ねたり、音楽の出だしをいらしたりして楽しくにぎやかな感じを出しました。リズムや強さをお祭りらしさかであるように工夫しました。
「音楽C」では水神様に感言身するやうにゆくりと大きな声でくり返し歌いました。又、ばんそうには留りコーダに合わせた音色を入れて、お祭りの感じを出しました。
おまきの最後は、和太鼓でリズムの合図を出しました。
・全体に楽しくなるように、リズムや強さに気を付けて合わせたので、早く合がせられたと思います。

音楽づくりを通した音楽的な見方・考え方

・それぞれのテーマをもとにした、自分たちのつくりたい音楽や一人一人の思いや意図を表現するための工夫 (個人・グループ)

<安食台小学校>

ししめいの音楽をつくらう

増えている、減っていく ししめい を表現したい

表現方法

最初は、2つの楽器で音を合わせ、ヒモビーン琴からは2拍りかねの音をひびきさせていき、増えていくししめいを表現し、最後、リコーダーから、音かたり、琴をけえんをうたして、強弱をつけました。

はくかのある、ししめい を表現したい

表現方法

反復を使って、強弱を工夫したりした。また、チャップは、ひびきすぎないようにし、始め、中、終わりを作ることができた。速さは、中を特に速くして、上手に拍をあわせることができた。

ししめいの音楽をつくらう

力強い ししめい を表現したい

表現方法

琴のけんを強くはじいたり、たいこを強くたたいたり、いろんな楽器の音をいっせいにだすための工夫をしました。また、最後に「ヤー」というかけ声で終わらせ、力強いししめいを表現しました。

ししめいの音楽をつくらう

メリハリのあらししめい を表現したい

表現方法

強弱のあるししめい、楽器がだんだん増えていき、減っていくメリハリのあるししめいが表現できます。太鼓と、大きくはくかすると大きな音がでし、小さくはくかすると小さな音がでます。

ししめいの音楽をつくらう

強弱をいししたししめい を表現したい

表現方法

最初は弱く太鼓だけ、だんだん強くするにつれていろいろな楽器を使い、後利につれてだんだん楽器の数をいれ、最後に太鼓でしめて、強弱をいしして、ししめい。

ししめいの音楽をつくらう

力強い ししめい を表現したい

表現方法

たいこの拍の音を強くしたり、琴だけ音を出したり、チャップのひびきを利用して力強さを表現しました。くり返しを使う事で、初め、中、終わり、を意識しました。

ししめいの音楽をつくらう

力強い ししめい を表現したい

表現方法

みんなで、合わせて演奏することで、一体感を出し、力強い音を表現しました。たいことチャップの組み合わせで、足音のあうような強い音にしました。

ししめいの音楽をつくらう

力強い ししめい を表現したい

表現方法

最初から太鼓の「ドン、カッ」の大きな音で始まり、最後も力強さを表現するためにかけ声(ヤー)を入れました。また、琴のけんを強くはじいたりチャップも力強くし、管ばらばら音を演奏はじ

第4学年 音楽科学習指導案

指導者 黒須 裕子 (布鎌小)

1. 題材名 音の組み合わせや進み方を選んで、音楽をつくろう (4時間扱い)

教材名 伝記「白馬にのった水神様」ミュージカル「印旛地方の伝説」(創意工夫)

2. 題材について

(1) 題材観

本題材と学習指導要領とのかかわり

第3学年及び第4学年

A表現(3)音楽づくり ア いろいろな音の響きやその組み合わせを楽しみ、様々な発想をもって即興的に表現すること。

イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、思いや意図をもって音楽をつくること。

(共通事項) (1) ア (ア) 音色, リズム, 旋律, フレーズ
(イ) 反復, 変化

本題材では、日本や地域に伝わる民話や音楽を視聴して、その内容や場面に合った楽器の音色を考えたり、リズムや「ミファラシド」の5音音階を使ったフレーズなどを工夫して音楽をつくったりして、児童がそれぞれの思いや意図をもって表現ができるようにすることをねらいとしている。

音楽づくりでは、この地域に古くから伝わる民話「白馬にのった水神様」をもとにする。この言い伝えは、布鎌地区の「布鎌惣社水神社」の建立のもととなり、地域でも身近な話である。児童にとっても地域の話を経験として取り扱うことで、日本音階の5音音階を使つての音楽づくりに対する関心を高め、積極的に自分の思いや意図を工夫・表現できるようにさせたい。また、音楽づくりの際に自分達の作ったリズムや旋律を組み合わせることで、独特の雰囲気のある音楽に親しませたい。

これらの活動によって、最後には児童一人一人が作った音楽を組み合わせ一つ音楽物語とし、クラス全員で作った音楽という達成感を持たせることによって、音楽づくりの楽しさや日本音楽のよさを味わわせたいと考える。

「白馬にのった水神様」


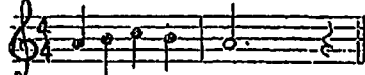
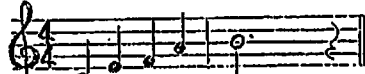
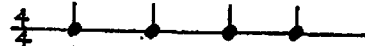

布鎌地区に古くから伝わる民話のひとつである。利根川と将監川・長門川に囲まれた湿地帯に開拓されたこの地区は、昔から大雨による洪水に悩まされていたが、人々は布鎌惣社水神社を建て、神様に守ってくれるように祈った。すると白馬にのった水神様がでてきて、大雨のたびに堤防を見回って洪水を防いでくれたという。そして、その水神様は相撲が好きだったので、毎年秋の祭りには相撲大会を行うことになったという。相撲大会については、毎年学校行事として10

月になると布鎌小の児童も全員参加しているので、児童にとって非常に身近な話である。しかし、相撲大会の成り立ちや民話の内容について詳しく知っていた児童は少なく、昔の布鎌は開拓地であったこと・洪水から身を守るための「水塚」があることや水神様を祀るために布鎌惣社水神社が建てられたことを知って驚いた児童もいた。また、水神様の存在や役割を知り、優しい神様だと感じたりする児童も多かった。

(2) 児童の実態 (男子9名 女子6名 計15名)

本題材を指導するにあたり、次のような実態調査を行った。

観点	調査問題	反応 (人)
○関心・意欲	1. 音楽をつくることは楽しいですか。 ①楽しい ②どちらかといえば楽しい ③楽しくない	① 14名 ② 1名 ③ 0名
○創意の工夫	2. 音楽をつくる時に、どんなことに気を付けていますか。 (複数回答) ・リズム ・メロディー ・ことばに合った音の高さ ・音色 (楽器)	11名 3名 4名 3名
	3. それぞれの場面にどんな楽器が合うと思いますか。(複数回答) ・いのりの場面 (水神様の登場) 和太鼓・締太鼓・スレイベル・横笛・リコーダー・ほうしょう・オルガン (フルート) ・雨の中で水神様が見回っている場面 和太鼓・大太鼓・すず・カスタネット・マラカス・シェーカー・ウェーブホーン (手作り楽器・ペットボトル) ・リコーダー・鉄琴 ・祭り (相撲大会) の場面 和太鼓・締太鼓・当たりがね・チャップパ・ボンゴ・小太鼓・ウッドブロック・横笛・リコーダー・オルガン (フルート)	

○表現の技能	4. つぎのせんりつを読んで演奏してみましょう。	
	(1) 	14名
	(2) 	12名
	(3) 	3名
	5. 次のリズムをたたいてみましょう。	
	(1) 	14名
	(2) 	11名

本学級の児童は、明るく素直で、男女ともに仲がよい。歌うことや楽器演奏への興味・関心が高く、学習にもきちんと進んで取り組むことができる児童が多いが、音楽づくりではグループで意見を合わせることに苦手な児童もいる。

児童は今までに、音楽づくりの学習として、1年生ではリズムづくり、2年生では「おまつりの音楽」や言葉に合うリズムづくり、3年生ではリコーダーを使った旋律づくり等を行ってきた。リコーダーでの旋律づくりでは、3つの音（シ・ラ・ソ）を使って旋律をつくってお互いに聴き合ってみた。

4年生になってからは、5音階を使って「さくらさくら」の歌からの音楽づくりをやってみた。歌詞の内容について理解し、その場面に合った楽器を選び、どんなリズムや音色にしていくかというのを考えて音楽づくりを行った。

技能面の実態としては、楽譜を読んだり書いたりするのは苦手という児童が多く、考えたリズムや旋律を正確に書くことができなかつたり、リコーダーや旋律楽器で表すのに時間がかかたりする。また、楽器も名前を知っているが、種類によっていろいろな奏法があることを知らない面もあって、場面に合わせた楽器の選び方も支援がないとできない児童もいる。

(3) 指導観

これまでどの題材の学習においても、〔共通事項〕である音楽を特徴づけている要素や音楽の構成やまとまりを意識して、工夫して表現したり鑑賞したりする活動に努めてきた。これらの諸要素や構成やまとまりは音楽表現の支えとなっている。本題材でも、諸要素や構成やまとまりを生かして、音楽を表現したり工夫してつくったりする活動を通して、表現することの楽しさや喜びを感じ取らせたい。

表現する時には、「自分の思いや意図をもって表現する」という意識をもたせるように指導してきた。本題材でも、表現する活動を通して、児童の物語や音楽から感じとった思いや、自分の意図を生かして、表現できるようにさせたい。

日本音楽の教材「日本のリズムや旋律をつかって、音楽をつくろう」では、日本独特のリズムや5音階を使って旋律をつくることによって、日本の音階やリズムの特徴・仕組みを体得させたい。

本題材の「白馬にのった水神様」では、日本の音楽のリズムや5音階の旋律にのって楽しく表現したり、場面に合った音の組み合わせや進み方を選んで創作したりすることによって、日本のリズムや旋律を感じ取ったり楽器の音色や組み合わせによる響き合いを味わったりすることができるようにしたい。グループごとに分担して、一人一人が場面に合いそうな音楽を想像してつくったり歌の言葉に合う音をあてはめてつくったりしたものを聴き合い選ぶ。選ばれたリズムやせんりつを反復・問いとこたえ・音の重なりなどの仕組みを使っていろいろな組み合わせを工夫して、グループで音楽をつくっていく。さらに、できた音楽に合う楽器を音色の特徴を考えたり聴いたりして選び、お話と一緒に合わせて音楽物語をつくり上げていきたいと考える。また、できれば様子や言葉の変化に応じて、音楽表現の際に速さや強弱の変化をつけられるように声かけしていきたい。

これらの音楽的活動（表現・創意工夫）を通して、進んで表現し、一人一人が自分の役割に責任をもって活動できるように支援していきたい。さらに、様々な表現活動を行うなかで、お互いのよさを認め合う思いやりの心を育てていきたい。

また、本題材では、単に聴いたり合わせたりするだけでなく、音楽の特徴やリズム・旋律を聴き取って話の内容にふさわしい音楽やリズム伴奏を考えさせたり、リズム・旋律の重なり合いの楽しさに気づいたりできるようにさせたい。また、互いの演奏を聴き合い音の重なりや工夫のよさを感じ取ることで、音楽の楽しさや面白さを認め合うように意識づけたい。

3. 題材の目標

- ・楽器の特性を生かしてリズムや旋律を演奏したり、自分なりの考えをもってまとまりのある音楽をつくったりすることに進んで取り組む。
(音楽への関心・意欲・態度)
- ・簡単なリズムやフレーズを演奏し、友達とつなげたり重ねたりして音楽をつくることことができる。
(音楽表現の創意工夫)
- ・始め方や終わり方、全体の流れを工夫し、まとまりのある音楽をつくることことができる。
(音楽表現の技能)

4. 題材の評価規準

	音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の評	① 「印旛地方の伝説」の場面や心情に想像を膨らませながら、興味・関心をもって聴こうとしている。 ② 楽器の特性を生かしてリズムや旋律を演奏したりつくったりして、それを友達とつなげたり重ねたりするな	① 楽器の音色やリズムを聴き取り、それらが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音の重ね方を工夫し、「白い馬にのった水神様」の内容に合わせて、どのように音楽を	① 問いと答えや反復などの音楽の仕組みを生かしたり、始め方や終わり方を工夫したりして、「白い馬にのった水神様」の内容に合わ

価 規 準	ど、音を音楽に構成することに興味・関心をもち、自分なりの考えをもってまとまりのある音楽をつくる学習に進んで取り組もうとしている。	つくるかについて自分の考えや願い、意図をもっている。	せて全体の流れを考え、まとまりのある音楽をつくっている。
-------------	--	----------------------------	------------------------------

5. 題材の指導・評価計画（4時間扱い）

次	時	◎ねらい ○学習内容・学習活動（共通事項）	・教師のはたらきかけ ◇評価規準【評価方法】
◎「印旛地方の伝説」の音楽や映像を、場面の心情や情景と音楽との関わりを感じながら、鑑賞する。			
第 1 次	第 1 時	○「印旛地方の伝説」のDVDを鑑賞し、音楽の諸要素などに気付く。 ・場面の要素を確認しながら、登場人物の心情がどのような音楽で表されているか、場面ごとの違いに気を付けながら聴く。 ・音楽の諸要素が感じられるように、気付いたことをワークシートに書き込む。 【音色・リズム・旋律】	・リズムや旋律、音色などの特徴を意識しながら聴くように指示する。 ・場面ごとの情景や登場人物の心情を音楽から想像して聴くように促す。 ◇音楽物語の場面や心情に想像を膨らませながら、興味・関心をもって聴こうとしている。 （関一①）【活動の様子・ワークシート】 ◇曲想とその変化、音楽の諸要素や構造から、場面がどのように表されているか感じ取りながら聴いている。
◎それぞれの場面の心情や情景を想像して、旋律をつなげたり重ねたりしてまとまりのある音楽づくりをする。			
	第 2 時 本 時 ～ 1 / 3 ～	○「白い馬にのった水神様」のそれぞれの場面をグループごとに担当して、音楽づくりをする。 ・最初は全員で旋律づくりをさせて、その際5音階を使うことを確認する。 ・場面の心情や情景をよく考える。 【音色・旋律・フレーズ】	・話を聴いて、グループごとにそれぞれの場面をどのように表すか話し合うように指示する。 ・各自で考えた旋律を聴かせ合って、場面に合っているか確認するように促す。 ◇楽器の特性を生かして、自分の思いをもって音楽を演奏したりつくったりして、音楽を構成してまとめていこうとすることに進んで取り組んでいる。（関一②）【活動の様子・ワークシート】

第 2 次	第 3 時	<p>○「白い馬にのった水神様」の場面ごとの考えた音楽を合わせて、もっとも合う音楽を選んで演奏する。</p> <p>・グループの中で聴き合い、旋律をつなげたり重ねたりして音楽をつくる。</p> <p>・音楽に合う楽器を選び、考えた旋律や音色を楽しむ。 〔音色・旋律・反復・変化〕</p>	<p>・お互いのよさや音楽の諸要素を組み合わせ、音楽をつくって発表できるようにする。</p> <p>・場面に合った楽器の音色を考えて、リズムや効果音を工夫して入れられるようにする。</p> <p>・役割を分担して演奏できるようにする。</p> <p>◇楽器の音色やリズムが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、自分の考えや意図をもって表現を工夫しようとしている。 (創一①) 【活動の様子・ワークシート】</p>
	第 4 時	<p>○すべての場面をつなげて、一つの音楽劇になる楽しさや達成感を味わう。 〔音色・旋律・変化〕</p>	<p>・お互いのイメージした表現が、まとまった演奏になるように助言する。</p> <p>◇音楽の仕組みを生かしたり、工夫して全体の流れを考えたりして、まとまりのある音楽をつくっている。 (技一①) 【活動の様子】</p>


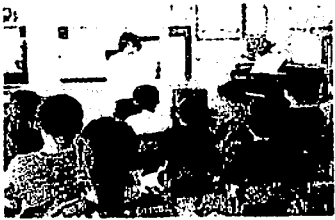
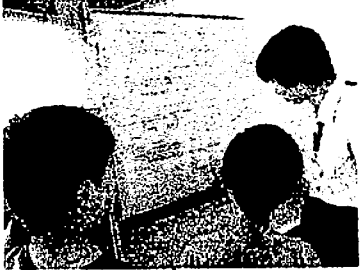
6. 本時の指導 (2/4)

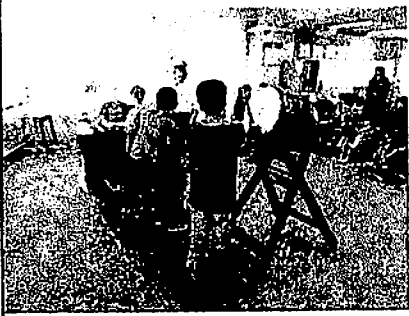
(1) 本時の目標

- ・登場人物の気持ちやそれぞれの場面の情景を想像して音楽で表現する学習に、進んで取り組もうとしている。
(関心・態度・意欲)
- ・場面の心情を考えたり5音階のよさを生かしたりしながら、思いや意図をもって旋律をつくる。
(音楽表現の創意工夫)

(2) 本時の展開

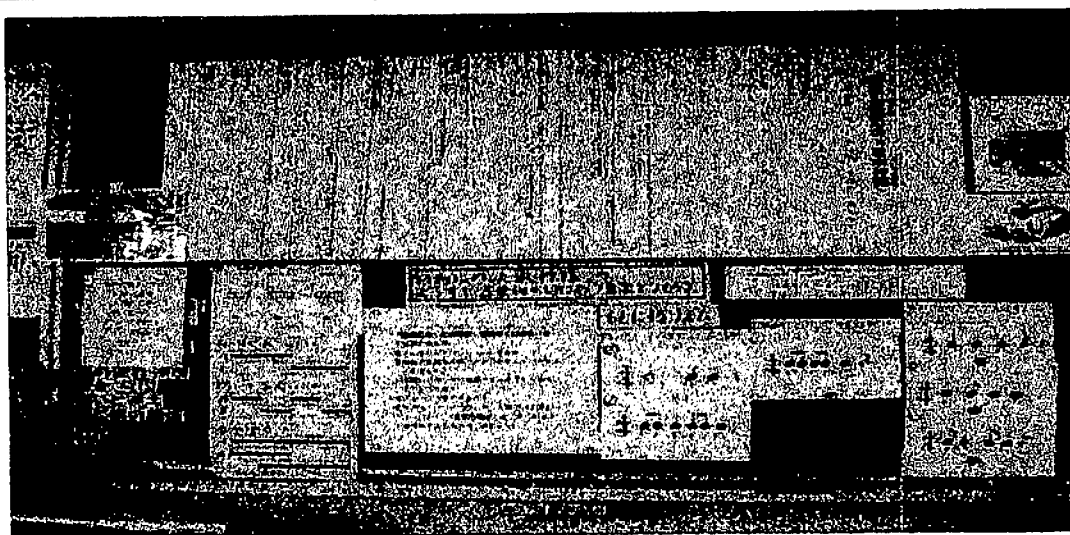
過程	時配	○主な学習内容 ・学習活動	・教師の働きかけ ◇評価【評価方法】	資料	(共通事項)の扱い
め あ て を も つ	2	○本時のめあてをつかむ。			
	3	<p>○旋律づくりの約束を確認する。</p> <p>・ミファラシドの5つの音を使い、4小節つくる。</p> <p>・場面の情景や心情をよく考えて、音型や音を選ぶ。</p>	<p>・黒板に「旋律づくりの約束」を掲示する。</p> <p>・使用する音型のリズムをグループ全員で確認したり、工夫の仕方(リズム・旋律・変化)を指示する。</p>	<p>掲示物 CD ワークシート</p>	

<p>考 え を 深 め る</p>	<p>・楽器（リコーダー・鉄琴・木琴） で音を確認しながら作って いく。</p> <p>30 ○自分の担当する場面について、 思いや意図をもって旋律をつ くる。</p> <p>①村人の願いによって建てられ た水神社から現れた水神様</p> <p>②大雨の中を白い馬にのって川 を見回る水神様</p> <p>③水神様のおかげで洪水から守 られ、相撲大会で祝う村人たち</p> <p>・最初はそれぞれ一人ずつ旋律を つくる。（①③の場面、②③の 場面ごと）</p>  <p>・旋律が出来上がってきたら、グ ループごとに、お互いの旋律を 聴き合ったり、工夫を話し合っ たりして、場面に合った旋律を つくる。</p>	 <p>・場面の情景や心情に想像を 膨らませて、旋律をつくる ように指示する。</p> <p>・旋律ができた児童には、自 分なりの工夫を考えるよう に声かけする。</p> <p>・なかなか思い浮かばない児 童には、音を聴かせてイメ ージを促す。</p> <p>◇（関一②）【活動の様子・ ワークシート】 登場人物の心情や情景を想 像しながら、旋律づくりに 進んで取り組んでいる。</p> <p>◇（創一①）【ワークシート・ 演奏聴取】 場面の心情を考えて5音音 階のよさを生かしながら、 自分の思いや意図をもって 工夫して表現しようとして いる。</p>	<p>リコーダー 鍵盤ハーモニ カ 鉄琴 木琴 オルガン 打楽器</p> <p>ホワイトボ ード</p> 	<p>〔音色・旋律〕 リズムや旋律 を工夫して、ワ ークシートに 記入したり楽 器で表したり してみる。</p>
	<p>8 ○できた旋律を聴き合う。</p> <p>・出来上がったところまで、発表 する。</p>	<p>・工夫した点と、なぜそのよ うな工夫をしたのかを発表 するように声かけする。</p> <p>・それぞれの工夫した点に気 を付けて聴くようにする。</p>		

振り返る	2				
		<p>○本時の目標をふり返る。 ・振り返りカードに感想を記入する。</p>	<p>・本時の目標でできるようになったことや、思ったことを書くように指示する。</p>		

(3)板書計画

<table border="1"> <tr><td>今日の授業の流れ</td></tr> <tr><td>前時の確認</td></tr> <tr><td>本時の目標</td></tr> <tr><td>個人創作1</td></tr> <tr><td>グループ創作2</td></tr> <tr><td>グループ発表3</td></tr> <tr><td>振り返り</td></tr> <tr><td>まとめ</td></tr> </table>	今日の授業の流れ	前時の確認	本時の目標	個人創作1	グループ創作2	グループ発表3	振り返り	まとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「白馬に乗った水神様」に合う音楽（せんりつ）をつくろう。</p> </div> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><「白馬にのった水神様」の話></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> </td> <td style="width: 50%; border-bottom: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><創作の手順></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div> </td> </tr> <tr> <td colspan="2" style="padding: 5px;"> <p><リズムの音型（例）></p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> </td> </tr> </table>	<p><「白馬にのった水神様」の話></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	<p><創作の手順></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	<p><リズムの音型（例）></p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>	
今日の授業の流れ													
前時の確認													
本時の目標													
個人創作1													
グループ創作2													
グループ発表3													
振り返り													
まとめ													
<p><「白馬にのった水神様」の話></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>	<p><創作の手順></p> <div style="border: 1px solid black; height: 100px; width: 100%;"></div>												
<p><リズムの音型（例）></p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>													



(4)本時の評価と教師の働きかけ

評価の判断	児童の様子と教師の働きかけ
Aと判断される児童の姿	登場人物の気持ちやそれぞれの場面の情景を想像して音楽で表現することに進んで取り組んだり，場面の心情を考えて5音階のよさを生かして工夫したりして，自分の思いや意図をもって表現している。
Cと判断される児童に対しての手立て	グループの中での話し合いから，自分の考えに近い考えに気付くように声かけをする。ワークシートの記入では，どんな場面の音楽をつくっているのかを想起させたり，5音階を使ってどんな音楽をつくりたいのかを確認したりして創作活動を進めやすいように助言する。必要に応じて奏法も鍵盤にシールを貼ったりして支援する。

できあがった作品

担当の場面を決めて，5音階を使って歌や曲をつくる。(第2時)

一人一人がつくった音楽を，音楽的な要素や異なる種類の楽器をふまえて組み合わせた。(第3時)

＜一人一人が工夫したところ・よかったところ＞

- ・強弱をつけて，水神様がいなくなる場所を表した。
- ・お願いをしているように音の高さに気を付けた。
- ・馬がくるようにリズムを工夫した。
- ・雨や嵐の音を大きくした。
- ・合わせる時に速さや繰り返しに気を付けた。
- ・音の重なりや強弱で祭りのにぎやかさを出した。等

第6学年1組 音楽科学習指導案

指導者 神成 美名

場所 体育館

- 1 題材名 和楽器で「獅子舞」の音楽をつくろう（7時間扱い）
教材名 地域に伝わる「獅子舞」の音楽（創意工夫）

2 題材について

(1) 題材観

学習指導要領とのかかわり

第5学年及び第6学年

- A 表現 (3) 音楽づくり ア いろいろな音楽表現を生かし、様々な発想をもって即興的に表現すること。
イ 音を音楽に構成する過程を大切にしながら、音楽の仕組みを生かし、見通しをもって音楽をつくること。

〔共通事項〕 ア (ア) 音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なりや和声の響き、音階や調、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴づけている要素

(イ) 反復、問いと答え、変化、音楽の縦と横の関係などの音楽の仕組み

本題材は、学習指導要領の領域とされている「A 表現」の中から「音楽づくり」について行っていく。高学年の音楽づくりの活動では、〔共通事項〕に示す資質・能力と併せてアに示す「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力、イに示す「知識」に関する資質・能力、ウに示す「技能」に関する資質・能力を育てていくことをねらいとしている。

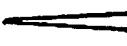
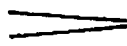


この活動を通して、この地域に古くから伝わる獅子舞をもとに、和楽器で即興的に表現する活動や音を音楽へと構成していく中で、児童が試行錯誤し、音楽をつくる喜びを味わうことができるようにする。和楽器の演奏では、不慣れな児童も多いため、音楽づくりの前に楽器の特徴や奏法などを理解する必要がある。今回目標としている音楽づくりでは、演奏の技能も必要となることから、事前に和楽器にふれる体験をもち、より自分の思いや意図に合わせた表現ができるようにする。また、〔共通事項〕に示されている音楽表現の工夫も理解させながら、より自分たちの思いや意図に合わせた音楽づくりができるようにする。その中で、和楽器の音色の組み合わせにより生まれるよさや面白さ、児童の思いや意図を表現する楽しさを見つけて、主体的に獅子舞のイメージに合わせた音楽をつくりあげていくことを大切にしていきたい。友だちと音楽をつくりあげていく際に、十分に話合いの時間や演奏する時間をもつことにより、互いの思いを交流し合いながら、自分たちのつくったリズムや旋律を組み合わせることで、和楽器独特の雰囲気のある音楽に親しませたい。

(2) 児童の実態

男子10名 女子11名 計 21名

調査日 平成31年4月15日

観点	調査問題	反応 (人)
○関心・意欲	1 音楽の学習は好きですか。 ・好き ・どちらかというが好き ・どちらかという嫌い(苦手) ・嫌い(苦手)	9名 4名 2名 6名
	2 音楽の学習で好きな活動はなんですか。(複数回答) ・演奏すること ・鑑賞すること ・歌うこと ・音楽をつくること	12名 9名 6名 5名
	3 和楽器で、演奏してみたい楽器、興味のある楽器は何ですか。 (複数回答) ・篠笛 ・和太鼓 ・箏 ・三味線 ・あたりがね ・チャップ	12名 11名 11名 5名 5名 3名
	4 音楽をつくることは楽しいですか。 ①楽しい ②あまり楽しくない ③楽しくない	①9名 ②8名 ③4名
	[理由] ① 世界に一つだけの音楽が作れる。 自分の思うように。音楽を自由につくれる。 自分で曲をつくるのが好きだから。おもしろいから。 好きな楽器で音楽が作れるから。 ②③ つくったことがないから、難しそう。 つくるのが上手ではないから。 自分の思った通りにつくれないと思うから。	

○表現の技能	5 地域に伝わる「獅子舞」を踊った感想や、踊るときに気がつけたことは何ですか。	
	・音楽のリズムに合わせて踊ること	7名
	・間違わないで踊ること	5名
	・体を大きく（力強く）動かすこと	4名
	・みんなに合わせて踊ること	2名
	・しなやかに踊ること	1名
○創意の工夫	6 次の記号の意味を書きましょう。	正答
	p (ピアノ・・・弱く)	13名
	mp (メゾピアノ・・・やや弱く)	12名
	mf (メゾフォルテ・・・やや強く)	12名
	f (フォルテ・・・強く)	13名
	 (クレシェンド・・・だんだん強く)	14名
	 (デクレシェンド・・・だんだん弱く)	14名
	7 次のリズムをたたいてみましょう。(締め太鼓)	正答
	(1)  (p - mp - mf - f)	14名
	(2)  (ゆっくりから速く)	16名
8 「獅子舞」を音楽で表現するとしたら、どんな「獅子舞」を想像しますか。		
・迫力のある獅子舞	18名	
・力強いけど、やさしい獅子舞の様子に変化をつけて	5名	
・静かで細やかな動きや、大きな動きで迫力のある獅子舞	3名	

本学級の児童は、音楽科の学習を「好き」、「どちらかというと好き」と答えている児童が半数以上占めている。しかし、「嫌い」、「苦手」としている児童も3分の1ほどいる。「好き」と答えている児童については、歌うこと、友だちと演奏すること、楽器にふれあえることを楽しみにしている児童が多く、音楽と意欲的に関わることができている児童が多い。しかし、「嫌い」、「苦手」としている児童の多くは、「音符が読めない。リコーダーが難しい。歌が苦手である。」といった技能面で苦手意識を感じている実態がある。高学年に進むにつれ、技能面での難しさが表れていることが現状である。しかし、歌唱活動として昨年度から学年合唱を行い、5、6年生で意欲的に音楽に関わる活動を行っており、自分なりに思いをもって歌う活動を楽しむことができている。児童たちは、苦手意識をもっている器楽ではあるものの、木琴や鉄琴、大太鼓、締め太鼓など、演奏しやすい楽器だけではなく、運指の難しいリコーダーも上手に演

奏することができる児童が多い。

本校児童と和楽器の関わりについては、2年生の「おまつりの音楽」、3年生の総合的な学習の時間の「下総栄太鼓」、4年生の「おはやしのリズムを楽しもう」、5年生の「日本の音楽」、6年生の「私たちの国の音楽」を通して、和楽器に関わり、ふれあう時間を設けている。また、6年生では、地域の人材活用（保護者）における「箏、三味線の体験教室」があり、箏や三味線の紹介、体験を通して短い時間ではあるが、和楽器にふれる時間を設けている。学校行事としては、3学期の始めに「新春コンサート」として、地域の方（保護者）による「春の海」「六段の調べ」などの演奏を「箏とバイオリン」「箏とフルート」などで行い、全校児童が日本の伝統的な音楽を鑑賞している。児童にとって、和楽器は、興味深い楽器となっている。

和楽器については、昨年度、実際に箏と三味線の演奏を体験している。この学習では、獅子舞の音楽づくりに向けて、少しずつ和楽器になれるために、和楽器とふれあう時間を設けた。初めて演奏する楽器ではあったものの、児童たちは意欲的に触れ合うことができた。和太鼓においては、中学年より演奏しているので慣れているが、箏や三味線については、あまり体験する機会が無かったので、爪やバチをもって自分の思いに合わせた演奏ができるように、という課題が少しでも達成できることも、スモールステップの中で取り入れていきたいと考えた。

5年生としての学習としては、総合的な学習の時間、図画工作科の合科により計画された伝統ある題材の発表「獅子舞」を、校内だけではなく、一年間の感謝の意味を込めて、地域の方々、保護者にも踊りを披露し、伝統を大切にしようとする活動を行ってきた。学習の中で、踊りを覚えること、獅子舞の頭を作ることを中心に行い、一人一人、迫力のある獅子舞を披露することができた。また、3学期の終わりには、6年生が音楽づくりをした「獅子舞の音楽」を聴くことができた。5年生一人一人が、6年生のつくった音楽に興味、関心をもち、自分たちが音楽をつくる時には、「あの楽器で、6年生のように表現したい。」と思いをもちることができた。今回の「獅子舞」のイメージの音楽づくりでは、昨年度の獅子舞の踊りを想起させ、個々の思いを大切にしながら、三味線や箏などの和楽器などを使って音楽づくりを進めていきたいと考えている。しかし、「篠笛」は、児童たちの興味をそそる楽器ではあるものの、音を出すことが難しく、練習で音を出すことができて、発表の場で音を出すことが出来ないこともあるため、達成感、満足感を味わわせるために、児童たちの思いによっては、篠笛の代わりにリコーダーで行ってもよいこととした。

昨年度の反省を生かし、今年度は、和楽器を生かした音楽づくりをさらに深めていきたいと考えた。本校は、平成29年度から平成31年度までの2年間、小中学校体育連盟印旛支部の指定を受け、体育科の公開授業研究会を行ってきた。体育科の領域の「表現」を通して、各学年のテーマをもとに自分たち（グループ）で、個々の思いを共有し合いながら、一つの演技をつくりあげるのである。各学年とも、「躍動」「緩急」「メリハリ」に重点をおき、変化に富んだ演技を構成することができた。また、中学年は「はじめとおわりのポーズ」と合わせて、中心部に重点をおいて動きをつくること、高学年はひとまとまりの動きである「はじめ—なか—おわり」が明確に伝わるような動きとなるように作りあげていく実践を行ってきた。この体

育科の研究を音楽科の授業においても生かしながら、自分自身をよりよく表現できる児童たちの育成をねらいとして進めていきたい。

(3) 指導観（教材観）

どの題材の学習においても、〔共通事項〕である音楽を特徴づけている要素や音楽の構成やまとまりを意識して、工夫して表現したり鑑賞したりする活動を行ってきた。これらの諸要素や構成やまとまりは、音楽表現の支えとなっている。本題材でも、これらの中で、今回は「強弱」と「音の重なり」を生かした音楽づくりを行う活動を通して、表現することの楽しさや喜びを感じ取らせたい。

本校学区の旧北辺田地区には、昔から「獅子舞」が伝わっている。元北辺田小学校の隣にある天満宮神社に伝わる「北辺田獅子舞」と、豊住工業団地の近くの一宮神社に伝わる「矢口獅子舞」の2つがあり、毎年、4月の第2、第3土曜日に、獅子舞の踊りが行われている。それぞれの獅子舞は、五穀豊穡、地域をやさしく見守る願い、家内安全などの願いなどが込められており、地域がひとつとなって毎年行われている伝統的な行事である。

本題材では、全体の構成に見通しをもち、共通事項である強弱、音の重なりなどを生かしながら、和楽器の音色を組み合わせる音楽をつくる活動を行っていく。

一番大切にしていきたいことは、獅子舞にもつ児童のイメージである。今までに、実際に頭を作り、音楽に合わせて獅子舞を踊ったことがあるからこそ、より想像力を高めながら音楽をつくることのできるのではないかと考えた。今回使用する楽器は、三味線、箏、締め太鼓、篠笛(リコーダー)、あたりがね、チャップパである。締め太鼓は、今まで演奏した経験がある児童が多いことと、リズムがわかれば演奏できるものとする。しかし、三味線、箏、篠笛などは、一、二度の練習では思うように演奏することが難しく、事前に奏法を理解しておく必要があるため、準備の時間も設けるように計画した。和楽器で表現する際に重要なのは、和楽器を演奏する技能である。児童たちが個々の思いをもちながらも、よりよい表現ができるようにするためには、それぞれの和楽器の奏法を理解し、自由に演奏できるようになってからこそ、思いを楽器に表せることになる。そのため、箏、三味線の二つの楽器においては、基本的な奏法を理解し、演奏できるようになるために、楽器に慣れる時間を設けた。それぞれに、調弦に時間がかかるが、児童たちの力も借りながら、意欲的に準備、片付けも行うことができるように進めていきたい。

児童は、獅子舞について、怖いイメージをもっている児童が多いが、昨年度、獅子舞の踊りにふれたり、6年生のつくった獅子舞の音楽を聴いたりしたことにより、個々にもつ獅子舞のイメージも変化してきた。力強く迫力のある獅子舞、地域を見守るやさしい獅子舞、静かで細やかな動きや大きな動きで迫力のある獅子舞など、それぞれにもつ獅子舞のイメージを大切にしながらグループごとにテーマを決めて思いを交流させることにより、グループで一つの音楽をつくり上げていきたいと考える。その際、楽器による役割を明確にし、和太鼓においては、拍取りの役割を意識させ、つくりあげた音楽を一つにまとめる際に、拍感を伝える手段とした

い。必要であれば、メトロノームを用いて、より児童たちの演奏がひとつとなるように活用していきたい。また、「強弱」については、個々に強弱を意識して演奏する場合と、演奏する人数を増減させながら変化をつけて演奏する手法を知らせ、音楽をつくり上げる際の手立てとしたい。和楽器で練習の際には、口唱歌を生かし、和太鼓の「テケテン」や三味線の「テントンシャン」篠笛の「ヒツミヨイムナヤ」など、楽器で演奏する前に口唱歌で練習させてから、楽器での演奏に取り組ませたい。その際に、速度を意識してみんなでテンポを合わせることも大切にしていきたい。また、楽譜については、自分のパートをどこで、どのように演奏するのか、視覚的にわかりやすいように工夫し、グループで確認しながら演奏できるようにし、「思考力、判断力、表現力等」に着目しながら「獅子舞」の音楽づくりをめざしていきたい。



3 題材の目標

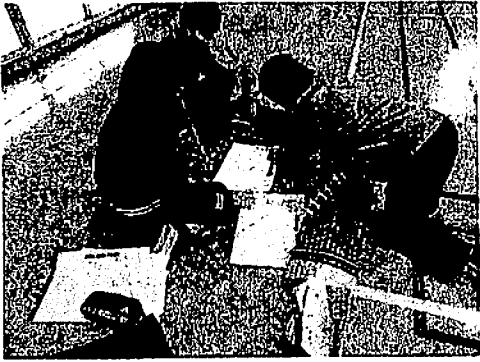
- ・ 和楽器の特性を生かしてリズムや旋律を演奏したり、自分なりの考えをもってまとまりのある音楽をつくったりすることに進んで取り組もうとしている。 (関心・意欲・態度)
- ・ 獅子舞の様子を感じ取りながら、自分の思いをもって演奏の仕方を工夫することができるようにする。 (音楽表現の創意工夫)
- ・ 友だちと思いを交流させながら、全体の流れを考えてまとまりのある音楽をつくることのできるようにする。 (音楽表現の技能)

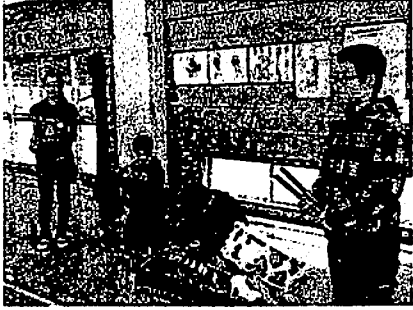
4 題材の評価規準

観点	音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
題材の 評価規 準	① 和楽器に興味・関心をもち、進んで演奏に取り組もうとしている。 ② 和楽器の音色や組み合わせに興味・関心をもち、拍にのって即興的な表現に進んで取り組もうとする。	① 獅子舞の様子を感じ取りながら、テーマを考え、どのように音色を組み合わせさせて演奏するかについて自分の考えや願いをもち、演奏の仕方を工夫して表現することができる。	① 強弱、リズム、音の重なりなどの音楽の仕組みを生かしたり、全体の流れを考えたりしながら、まとまりのある獅子舞の音楽をつくっている。

5 題材の指導計画及び評価計画（7時間扱い）（本時5／7）

時配	<p>◎ねらい</p> <p>○学習内容・学習活動【共通事項】</p>	<p>・教師の働きかけ</p> <p>◇評価規準【評価方法】</p>
第1次 1時間	<p>◎三味線や箏の奏法について知り，和楽器に慣れる。</p> <p>○三味線，箏の名称，準備の仕方を聞く。</p> <p>○撥や爪をつけて，自由に演奏する。</p> <p>○片付けの仕方を聞き，落ち着いて片付ける。 [音色]</p>	<p>・三味線，箏の特徴をつかみ，和楽器に親しみをもつ。</p> <p>・楽器を自由に演奏する。</p> <p>・準備，片付けの仕方を知る。</p> <p>◇和楽器に興味・関心をもち，進んで演奏に取り組もうとしている。 (関一①)【ワークシート】</p>
	<p>◎和楽器の奏法を確認し，自分の担当の和楽器に慣れる。</p> <p>○自分の分担楽器の練習をする。</p>  <p>[音色・強弱・リズム]</p>	<p>・楽器を自由に演奏する。</p> <p>・強弱やテンポを工夫しながら，色々なリズムで練習する。</p> <p>・三味線，箏，篠笛（リコーダー）については，出せる音で練習する。</p> <p>◇和楽器に興味・関心をもち，進んで演奏に取り組もうとしている。 (関一①)【ワークシート】</p>
第2次 本時(3/3)	<p>◎獅子舞の様子を感じ取りながら，自分の思いをもって獅子舞の音楽をつくる。 (本時3／3)</p> <p>○グループで，獅子舞に合う音楽をつくる。</p> <p>・獅子舞のイメージをもとに，テーマを考える。</p>  <p>[音の重なり，強弱，反復，音楽の縦と横の関係]</p>	<p>・写真や絵を参考にしながら，獅子舞についてテーマを考え，音楽づくりのイメージを広げる。</p> <p>・和楽器でどのように演奏したらよいか考える。</p> <p>◇獅子舞の様子を感じ取りながら，テーマを考え，どのように音色を組み合わせる演奏するかについて自分の考えや願いをもち，演奏の仕方を工夫して表現することができる。 (創一①)【ワークシート】</p>

	<p>○グループで、獅子舞に合う音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージする獅子舞に合わせて2拍子の音楽をつくる。 <p>[強弱, 音の重なり, 反復, 音楽の縦と横の関係]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間を想起し、獅子舞の様子を感じて音楽をつくる。 <p>◇獅子舞の様子を感じ取りながら、テーマを考え、どのように音色を組み合わせて演奏するかについて自分の考えや願いをもち、演奏の仕方を工夫して表現することができる。</p> <p>(創一①)【活動の様子】</p>
	<p>○グループで、獅子舞に合う音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の音色を感じながら、音を重ねていく楽しさを味わう。  <p>[強弱, 音の重なり, 反復, 音楽の縦と横の関係]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽器の音色を感じながら個々に考えた旋律やリズムを話し合い、獅子舞の音楽をつくる。 <p>◇獅子舞の様子を感じ取りながら、テーマを考え、どのように音色を組み合わせて演奏するかについて自分の考えや願いをもち、演奏の仕方を工夫して表現することができる。</p> <p>(創一①)【活動の様子・ワークシート】</p>
<p>第3次 1時間</p>	<p>◎つくった獅子舞の音楽をグループごとに工夫して練習する。</p> <p>○獅子舞の様子を想像しながら、表現の仕方を工夫して音楽をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各楽器の音色のよさを生かしながら、獅子舞の音楽を演奏する。 <p>○グループごとにつくった音楽の学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・使う楽器や順番を工夫しながら練習する。 <p>[強弱, 音の重なり, 反復, 音楽の縦と横の関係]</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前の時間を想起し、獅子舞の様子を感じて演奏するようにする。 ・自分の楽器の音を確認しながら、友だちと気持ちを合わせ、練習できるようにする。 <p>◇強弱, 速度などの音楽の仕組みを生かしたり、全体の流れを考えたりしながら、まとまりのある獅子舞の音楽をつくっている。</p> <p>(技一①)【活動の様子・ワークシート】</p>

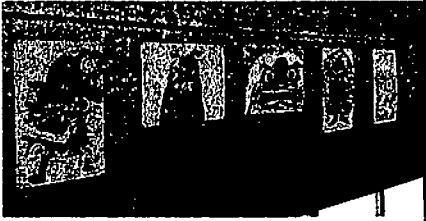
第4次 (1時間) 総合的な学習の時間	◎つくった獅子舞の音楽を発表する。	
	○ グループごとにつくった音楽を発表する。 (学年、5年生) <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に練習したことを思い出し、聴いてほしいポイントを確認しながら、獅子舞の音楽を聴き、感想をもつ。 	・グループごとにつくった音楽を発表する。 ・友だちの発表を聴き、自分たちのつくった音楽との違いや獅子舞のイメージに合わせてつくった音楽を楽しんで聴く。 ・テーマのもと、自分たちでつくった音楽を5年生に発表する。 ◇獅子舞の様子を感じ取り、自分の思いを大切にしながら、グループでつくった音楽を発表している。 (創一①)【活動の様子・ワークシート】
		
	[強弱、音の重なり、反復、音楽の縦と横の関係]	

6 本時の学習 (5/7)



(1) 本時の目標

- 獅子舞の様子を感じ取りながら、自分の思いをもって、和楽器で獅子舞の音楽をつくらることができる。
 (音楽表現の創意工夫)

(2) 本時の展開

過程	時配	○主な学習内容 ・学習活動	・教師の働きかけ ◇評価【評価方法】	資料	〔共通事項の扱い〕
	3	1 「獅子舞」のもつイメージを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が描いた獅子舞の絵や写真などを見ながら、獅子舞のもつイメージを確認することにより、グループで作りあげる音楽のイメージをもたせる。 ・本時の学習につながるように2拍子の拍を意識しながら、手拍子で表現させる。 	獅子舞の踊り絵写真	
	2	2 2拍子の拍に合わせたリズムを練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の流れについて確認する。 	リズムカード	学習の流れ

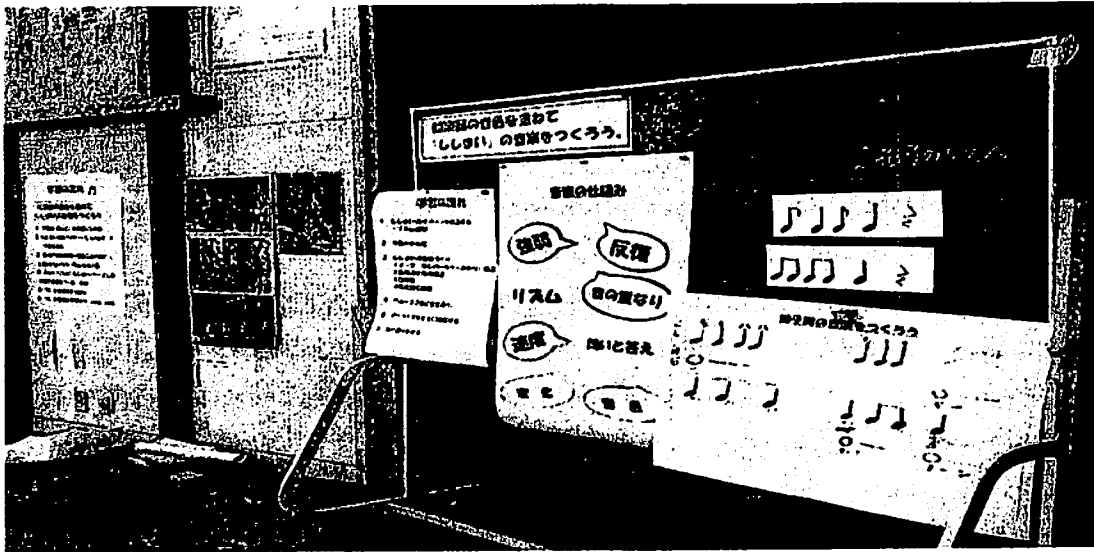
め あ て を も つ 考 え を 深 め る	2	3 課題をつかむ。			
		ししまいの様子を感じ取りながら、和楽器で音楽をつくろう。			
	15	4 獅子舞の様子を和楽器で練習する。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで考えたテーマのもと、獅子舞の表現したい様子をグループごとに確認させる。 ・より獅子舞のイメージに近づけるために、表現に生かせる強弱や速度、音の重なりなどをもとに工夫して表現することができるようにさせる。 ・自分たちのテーマでつくった音楽をもとに、演奏の順番やリズムの組み合わせ方などを話し合い、どのように演奏するのか、表現の仕方を工夫させる。 	ワークシート 箏 三味線 篠笛 リコーダー 締太鼓 長胴太鼓 あたりがね チャップメトロノーム	〔強弱音の重なり〕 強弱や音色の重なりを工夫して、楽器で表現する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・箏 ・三味線 ・篠笛 (リコーダー) ・締め太鼓 ・長胴太鼓 ・あたりがね ・チャップ <p>○ 自分たちで考えたテーマを確認する。 「はじめ—なか—おわり」</p> <p>○ 表現の工夫について確認し、それぞれの音を合わせながら練習する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">強弱 音の重なり</div> <p>(4～5人グループ・5チーム)</p> <p>『静まり返った場面から、迫力のある獅子舞が出てきて力いっぱい踊る様子を、強弱やリズムを工夫しながら表現したい。』</p> <p>『始めは一匹だった獅子が、後からもう一匹出てきて踊った後、心やさしい獅子に変化する様子を強弱で表現したい。』</p>			
	10	5 全体で、中間発表をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・できたところまで、グループごとに発表させる。他のグループは、聴いてほしいポイントやアドバイスなどについて、感じたことを伝えるようにする。 		聴きポイントシート
		<ul style="list-style-type: none"> ・演奏する前に、工夫したところ、聴いてほしいところを発表する。 			

			<p>◇ (創一②) 【発言・観察】</p> <p>獅子舞の様子を感じ取り、自分の思いを大切にしながら、和楽器で獅子舞の音楽をつくることができたか。</p>	
	8	<p>6 アドバイスをもとに練習する。</p> <p>友だちのアドバイスをもとに、直すところ、さらによくしたいところを確認しながら練習する。</p>	<p>・友だちのアドバイスをもとに、直すところ、さらによくしたいところを確認しながら練習する。</p>	
				
振り 返 り	3	7 学習の振り返りをする。	<p>・学習の振り返りを行い、次の活動への意欲をもたせる。</p>	振り返り カード
	2	8 次時の学習を知る。	<p>・次時の学習を知り、学習のまとめとなるようにする。</p>	

(3) 板書計画

ししまいの様子を感じ取りながら、和楽器で音楽をつくろう。

音楽表現の工夫	楽 譜	2拍子のリズム							
本時の学習のながれ	獅子舞の写真	強弱 音の重なり	<table border="1" style="width: 100%; height: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; height: 20px;"></td></tr> <tr><td style="width: 50%; height: 20px;"></td><td style="width: 50%; height: 20px;"></td></tr> </table>						



(4) 本時の評価と教師の働きかけ

評価の判断	児童の様子と教師の働きかけ
Aと判断される児童の姿	和楽器の音色やリズムなどが生み出すよさや面白さを感じ取り、音の重ね方や構成を工夫して、自分の思いや意図をもって表現している。
Cと判断される児童に対しての手立て	グループの中での話し合いから、和楽器の音色やリズムなどのよさや面白さに気付けるように声かけをする。 ワークシートの記入や和楽器での練習の際に、どのように演奏すればよいのか一緒に考えたり、奏法を確認したりしながら練習させる。

【仮説1】について

- 柴町にある「獅子舞」や「白馬にのった水神様」をテーマに、地域の人から踊りを教えてもらったり、地域行事に参加したりする活動に意欲的に取り組むことができた。さらに、他校の友だちとの交流会を通して、自分たちの地域を振り返り、その伝説や伝統の音楽にふれることで、見識を広げることができた。
- 自分のイメージやグループのイメージを大切にしながら友だちと音楽をつくったり、聴き合ったりすることで、よいところや違うところを認め合いながら、思いや考えを深めて音楽づくりにつなげることができた。
- 箏や三味線など、和楽器ならではの難しさがあったが、昨年度からの積み重ねにより、少しずつ自分の思うように表現できるようになってきた。
- 和楽器による役割を意識させたことで、一人一人が拍感を感じながら、みんなでそろえて演奏することのよさに気づき、まとまりのある音楽をつくり上げることができた。

【仮説2】について

- 地域に伝わる「獅子舞」や「民話」に興味、関心がもてるように、導入の仕方を工夫したり、昨年度の発表を思い出させながら音楽づくりに取り組ませたりしたことにより、個々の意欲も高まり意欲的に活動することができた。
 - リズムや音楽の構成を学習カード（ワークシート）で示すことによって、児童一人一人が自分の考えや思いを視覚的に組み立てやすくなった。
 - 音楽作りに用いる楽器として、木琴や鉄琴・鍵盤楽器・和楽器の打楽器を選定したことにより、リコーダーの苦手な児童も、無理せずに自分の思いを演奏することができた。
 - 合わせるためのめあてを焦点化して、活動内容（リズム・拍感・速度・強弱）を統一することによってより演奏が合わせやすくなった。
 - お互いの作品をグループで大きく掲示することによって、お互いの考えもまとめて表現をより広げられるようになった。
- △思いや考えを生かすための表現力は、普段からの積み重ねや技能の習得、その学年に合った教材の選択や研究が必要と感じた。
- △自分の思いをどのようにして楽器で表現するのかを考えさせること、また、自分の思いをどのように演奏したら、思いに合う表現になるのか考えさせることの難しさを改めて感じた。そのための楽器を演奏する技能の習得が不可欠であり、長期的な計画のもと、児童の発達段階を考慮しながら児童に合わせた楽器奏法の習得を進めていく必要がある。

※小学生による和楽器の技能

- 箏・・・指（手）の力の弱さによる強弱の難しさ
- 三味線・・・弦ごとの音階の演奏の難しさ

安食台小学校・布鎌小学校との交流会・・安食台小学校 音楽室にて (令和元年7月17日)

安食台小学校6年生と布鎌小学校4年生のみなで、「ふるさと栄のたからを伝え合おう」の交流会を行いました。

ふるさと「栄」のたからを伝え合おう

安食台小学校6年生



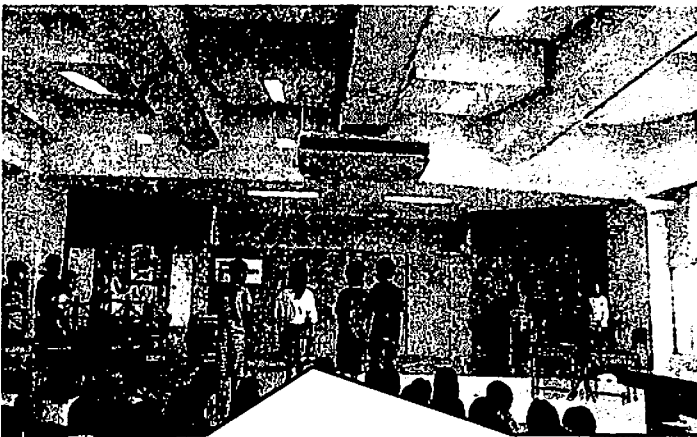
力強く踊る獅子舞や、獅子舞が増えたり減ったりする様子を和楽器で表現しました。

布鎌小学校4年生



「白馬に乗った水神様」が現れた様子を、自分たちのつくった音楽で表現しました。

感想を伝え合う場面



それぞれにつくった音楽の発表を聴き合いました。それぞれの音楽のよいところや気付いたところを伝え合い、充実した時間となりました。

初めて、栄町の歴史や文化にふれて、地域のよさを感じ取ることができました。

交流会プログラム♪

1. 始めの言葉
2. 獅子舞の説明
3. 獅子舞の発表
4. 感想発表 (布鎌小)
5. 水神様の説明
6. 水神様の発表
7. 感想発表 (安食台小)
8. 校長先生の話
9. 終わりの言葉

交流会を通して、地域に伝わる伝統音楽や伝説について知り、互いにつくった音楽を聴き合うことで、改めて、ふるさと栄の歴史やよさを知ることができた。

7 研究のまとめ

今回の研究では、地域に伝わる伝統音楽や民話の世界の表現活動を通して、自分の思いや意図や音楽的な見方・考え方を働かせて伝えられるような指導の工夫に取り組んだ。

【仮説1】地域に伝わる伝統を通して、友だちと共に音楽活動を行ったり、地域の人々との関わりをもったりすることにより、伝統音楽や日本音楽のよさや面白さを味わうことができるであろうとした。そこで、児童の興味・関心を高められるような地域の特性を生かした身近な素材を取り入れたり、伝統音楽を聴かせたりすることによって、より興味をもって日本音階の面白さを味わうことができた。また、身近な素材の中から教材を選ぶことで、地域への思いや作品へも親しみをもって、音楽づくりに取り組むことができた。音楽のつくり方や音楽的要素を掲示したり、ワークシートを活用して作品の視覚化をしたりすることで、全員が音楽づくりの共通理解をする助けとなり、見通しをもって作品を仕上げている活動へとつなげていくことができた。

音楽をつくる過程で、個々の思いや意図を大切にしながら、グループや学級の友だちとの思いを交流させることで、互いの考えを深め合いながら音楽を仕上げることができた。また、学校間交流において、それぞれにつくり上げた音楽を伝え合うことにより、自分の思いが聴き手に伝わったことが確認することができた。

【仮説2】地域に伝わる伝統音楽や民話を聴いたり演奏したりする活動を取り入れることで、それぞれの思いを生かした表現活動につなげることができようとした。身近な素材を鑑賞したり扱ったりすることによって、自分の思いや意図を音楽で表し、伝えるためにワークシートの使い方や楽器の演奏法の工夫に取り組んだ。伝統音楽や地域の伝説のDVDで学びとったことを、伝える意識をもって自分たちでつくった音楽で表す活動ができた。しかし、和楽器においては、技能面が難しいため、思うように演奏できない場面もあった。学年を考慮しながら、さらに段階的な指導法を工夫する必要があった。

グループ活動を通して、互いの思いを生かしながら一緒に作り上げていくなかで、技能や演奏方法も知ることができた。どのように音楽表現をすれば、自分の思いが聴き手に伝わるのか、一人一人がよく考えながら活動することができた。

研究を通して、【仮説1】が大きな前提となり、【仮説2】が成り立つことが児童の言動や活動、ワークシートの内容からわかった。

そして、町内の小中学校で取り組んでいる「栄っこ宣言」の『ふるさと「栄」をほこります』の合言葉にもあるように、地域に伝わる伝統や音楽を知り、これからも大切にしていこうという意識をもつことができた。

今回の研究は、印旛地区教育研究会音楽分科会の令和元年度研究副主題に大きくつながるものであると考える。今後は、①音楽的な見方、考え方を働かせながら表現するための音楽的能力（読譜力や感性、技能など）②地域に伝わる伝統音楽や民話の世界を継承していく意識づけの視点から授業改善を進めていきたい。これらを指導計画の中でどのような手立てでどこに位置付けるかといった明確な視点を持ちながら研究を進め、印旛地区教育研究会音楽分科会の研究主題にさらに迫るために、日頃から意識して授業に取り組んでいきたい。

資 料 編 ♪

地域に伝わる獅子舞・布鎌惣社水神社

栄町指定文化財

矢口獅子舞



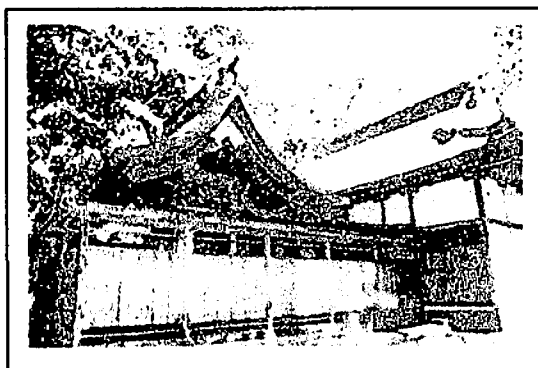
400年前から続く獅子舞
五穀豊穡と魔除けを祈願して、行われている。

北辺田獅子舞



500年前から続く獅子舞
五穀豊穡と区内安全、魔除けを祈願して、行われている。

布鎌惣社水神社



建立 1757年
洪水があるたびに、白馬に乗った水神様が布鎌の堤防を見て回ったという伝説。
秋の例大祭・・・子どもによる奉納相撲

資料（4年生「白馬にのった水神様」布鎌小学校より）

伝説〈白馬にのった水神様〉（あらすじ）

およそ300年前のことです。

布鎌は、「輪中」といって、川に囲まれた小さな島でした。そこを人が住むために、川に堤防や閘門をつくったり、埋め立てたりして開拓した所です。

でも、大雨や嵐がくると、川の水かさが増し、洪水で川は決壊して、あっという間に田んぼは水で埋まってしまいました。作物もだめになり、人々は田んぼの改修に追われました。そんな洪水が1～5年おきに起きると、村人たちは生活にも困りました。川の水は、大切な飲み水や生活用水であり、生活を豊かにしてくれるものでしたが、水害のもとにもなったのです。村人は堤防を作りなおしたり、「水塚」を作って家を守ったりしてと懸命の努力しましたが、いっこうに洪水による水害が無くなりませんでした。

①そこに、村人はお社を建てて神様に拝みました。「どうぞ洪水をなくして、田んぼを守ってください。」すると、白馬にのった水神様が表れていました。「わたしは相撲が好きなのだが、毎年相撲を見せてくれたら、洪水が起こらないように見守ってあげよう。」

②それから、しばらくしてから、また大雨が降りました。村の消防団の人たちは心配になり、ずっと川を見張っていました。でも、長い間監視していると疲れて居眠りをしてしまう人もいました。その時、堤防の方をみると、白い馬にのった水神様が見回っている姿を見つけました。すると、不思議なことに川の決壊もなく、洪水も起こらなかったそうです。

③こうして、村人たちは、水神様に感謝しては、毎年相撲大会して、豊作を祈りました。相撲大会では、よその土地からも力自慢が集まったり、子どもたちも相撲をとったりして楽しみました。また、相撲のシコをふむことが地面を踏み固めるのでいいともいわれました。

普段の水神様は、どうしているかって？

仲の良い布川（茨城県）の地蔵様と、自分たちの土地自慢をしてるそうですよ。

⑤「わたしの土地には、田んぼがたくさんあって、毎年豊作を祈って、相撲大会が行われるのですよ。ごちそうがでたりして楽しいですよ」

①「わたしの土地では、子どもたちがみんな元気でだれも風邪をひきませんよ。だから、地蔵市の時には、たくさん店がでて人も集まってにぎやかですよ」

なんとも、平和でいいですね・・・

「白馬にのった水神様」の音楽やげきを
つくってみての感想

- ☆場面のように合っているかな？
- ☆自分なりの工夫はしたかな？

日本よき音階で、日本、ほくなるものがわかりました。
神様のことを思いだし、スレイベルを多くしました。
水神様がいなくなるころをどんどん小さく弱く
しました。
私の音楽は、あくりめが、友だちのは、ほそめだったの
で、りんしゅうをしました。
強弱や、ひょうしに気をつけて、ミュージカルっぽくし
ました。自分でつくれたから、たのしがたずす。

「白馬にのった水神様」の音楽やげきを
つくってみての感想

- ☆場面のように合っているかな？
- ☆自分なりの工夫はしたかな？

音楽を作、てむかしは、たけど、雨や嵐をイメージ
して、だんだん大きくしたりして、まくくれ
たと思います。音楽Cの木きんの音が、太りに
消されたので、大きくなりました。
反ぶくのおがけて、「雨」のようけを、雨げんで
きました。

「白馬にのった水神様」の音楽やげきを
つくってみての感想

- ☆場面のように合っているかな？
- ☆自分なりの工夫はしたかな？

音のかさなりを気をつけて、やりまし
た。3回くりかえして、音を数えな
がらやりました。すこし音が、ずれて
しまったけど、あわせられてよかったです。
リズムを工夫し、系目み合わせは、む
すかしが、たけれど、きれいな音楽
になりました。

「白馬にのった水神様」の音楽やげきを
つくってみての感想

- ☆場面のように合っているかな？
- ☆自分なりの工夫はしたかな？

ちょっとむすかしが、たけれど、だんだんえ
んえうするのが、たのしくなってきました。
音楽Cのたいこが、強弱をつけて、い
てよかったです。くわう
したことは、歌のと、きき、たいこ
としめ、たいこもあわせたこと
です。おまりのように、楽しくでき
てよかったです。

「白馬にのった水神様」の音楽やげきを
つくってみての感想

- ☆場面のように合っているかな？
- ☆自分なりの工夫はしたかな？

げきで、自分のうしろ目が、たせ
てよかったです。たりに、のり、な
が、いいで、思いました。雨の音は
はげしくして、りりです。りり、が
が、れが、よかったです。
みんなが、すまの、とき、出て
かったです。音楽のリズム
が、ちやうど、その、易面、に、あ
りました。

「白馬にのった水神様」の音楽やげきを
つくってみての感想

- ☆場面のように合っているかな？
- ☆自分なりの工夫はしたかな？

金きんして、水神様が、表れるように
工夫しました。えんぬしの、えんぎも
すまを、大きく、らって、感じを、たしました。
いろいろな、きで、音楽が、作れて、楽し
かったです。で、ばいも、た、さん、あ、た、け
ど、か、た、ば、か、て、よ、か、た、た、です。また、
作りた、い、です。

資料（6年生 「ししまいの音楽」安食台小学校より）



学習の流れ

和楽器で、ししまいの音楽をつくろう。

- 1 三味線、琴などの和楽器に慣れる。
- 2 ししまいのもつイメージに合わせて、テーマを考える
- 3 自分の担当楽器の音色に合わせて、ししまいのせんいつ(リズム)を考える。
- 4 グループごとに、ししまいのテーマに合わせて音楽をつくる。(本時)
- 5 つくった音楽をきき合う。
- 6 つくった音楽を発表する。(学年、5年生)



強 弱

強く だんだん強く
弱く だんだん弱く

音の重なり

2つ以上の音の重なり
ちがう音色を重ねて

和楽器で、ししまいの音楽をつくろう。

はじめ
 太鼓のリズム
 を取り、他の楽
 器が太鼓のリズ
 ムにのり音楽を
 始める。(たんたんたく)



なか
 ししがだんだん
 増えてきて、おど
 っている様子
 がわかる。



おわり
 たんたんしし
 が減っていき、の
 りをイメージして
 音を小さくする。

他の楽器が太鼓のリズムにのり演奏を始める。 → ししがだんだん増えてきておどっている様子 → だんだんししが減っていく様子

9

はじめ

① 楽譜表 (Musical notation grid)

なか

② 楽譜表 (Musical notation grid)

なか

③ 楽譜表 (Musical notation grid)

おわり

④ 楽譜表 (Musical notation grid)

おわり

⑤ 楽譜表 (Musical notation grid)

おわり

⑥ 楽譜表 (Musical notation grid)

おわり

⑦ 楽譜表 (Musical notation grid)

ししまいの音楽づくり

6年 ()

○ 獅子舞の音楽づくりについて、友だちと考えを伝え合いながらつくる学習をしてみ、どんなことがよかったですか。

表現したかったししまいの音楽が作れ、私は小太鼓でした。私のグループは三味線・チャッパ・しの笛・小太鼓の和楽器です。私達のグループのイメージはししまいがそれぞれちがう動きを合わせて強弱を意識し、始めは弱く中は強く終わりは弱くを表現して作りました。

練習は大変だったけれど、とてもおもしろかったです。小太鼓を選んで良かったです？



ししまいの音楽づくり

6年 ()

○ 獅子舞の音楽づくりについて、友だちと考えを伝え合いながらつくる学習をしてみ、どんなことがよかったですか。

ししまいの色々な表現がつかえて友だちと協力できたことが良かったと思います。ぼくの楽器はあたりがね(チャッパ)だったけれど、ちめ太鼓や笛、三味線などの音色を合わせて、色々な表現をつくれたと思います。



ししまいの音楽づくり

6年 ()

○ 獅子舞の音楽づくりについて、友だちと考えを伝え合いながらつくる学習をしてみ、どんなことがよかったですか。

音楽を作る時は、拍を合わせる事がとても大事なのがわかりました。みんな、テーマ(ししまいの音楽)は同じだけど、音・リズムが合さり、色々なししまいが想像できました。しの笛は、初めて吹きました。音がきれいにでる時と、かすれた小さい音が出る時があり、心配してたけど、5年生に発表した時は、しっかり音がでて、良かったです。班王のみんなと協力して音楽を作りました!!。◎



ししまいの音楽づくり

6年 ()

○ 獅子舞の音楽づくりについて、友だちと考えを伝え合いながらつくる学習をしてみ、どんなことがよかったですか。

たくさんの和楽器(三味線・こしめたい・和たいこチャッパ・あたりがね・しの笛)にさわって、自分がかきたい楽器を見つけ、班で"おんがくをつくり、楽しくて、班のみんなと協力できたの思います。ししまいのおんがくは、ししまいのイメージに合わせてつくるのもとてもたのしく、私にとっては、とてもいいししまいのおんがくをつくれたのでよかったです。



布鎌小の演奏をきいて感じたこと

6年

○どんな話（世界）を思いうかべましたか？

○音楽表現の工夫はどうでしたか？

和楽器と洋楽器を合わせて、演奏していたのがおもしろかったです。
(大だいこ、小だいこと鉄琴など)
雨の音をマラカスなどで表現させていて「工夫していてすごいなあ。」と思いました。あの演奏を自分たちで作ったなんて「4年ですか??」と思うくらいすばらしかったです。歌も、2人で歌ったり、みんなで歌っていたりしてよかったです。

すもう大会も、みんなで、うけついでください、がんばってください。



布鎌小の演奏をきいて感じたこと

6年

○どんな話（世界）を思いうかべましたか？

○音楽表現の工夫はどうでしたか？

川の水の音の効果音や、お話の中の音楽が本格的でスゴいなへと思いました。手作りの楽器まであったのでびっくりしました。歌も上手だったし、その歌に合わせているピアノのリズムも合っていて本当にすごいなへと思いました。小太鼓のリズムや鉄琴のリズムが心に残りました。布鎌ですもう大会が行われている事は知っていたけど、なぜ、毎年行われているのかは知らなかったの。今回、この授業を通して知る事ができてよかったです。

ありがとうございます??



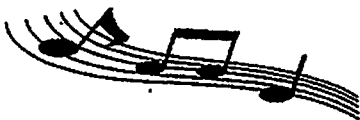
布鎌小の演奏をきいて感じたこと

6年

○どんな話（世界）を思いうかべましたか？

○音楽表現の工夫はどうでしたか？

和楽器ならではの音と洋楽器ならではの音が重なりあって、とてもきれいだった。そして布鎌の伝統芸能がよくわかった。特に、マラカスで水の音を表している所が良かった。
自分達の琴や太鼓だけで音楽表現することとはちがって、げきを行ったりしていることに感じた。それに鉄琴の音色がとてもきれいで良かった。



布鎌小の演奏をきいて感じたこと

6年

○どんな話（世界）を思いうかべましたか？

○音楽表現の工夫はどうでしたか？

総練習を見て、すごいクオリティーがあるすごいなへと思いました。歌が上手くて私の4年生の時より絶対上手だったと思います。白馬に乗った水神様のお話は聞いたことがなくて同じ栄町に住んでいるのに、まだまだ知らないことたくさんあると思います。川の音も場面が変わると音楽が表現していてとても良いと思いました。今回は私達にすばらしいパフォーマンスをしてくださり、ありがとうございます。

